令和4年度実施分 協働事業・市民活動助成事業 公開プレゼンテーション審査資料

(HP掲載用)

目次(プレゼンテーション発表順)

No	区分	事業名	団体名、事業担当課名	スタート	ステップ アップ	協働	ページ	添付 資料
1	新規	ときわだいら オープンアトリエ事業	特定非営利活動法人 ディープデモクラシー・ センター		0		1	
2	2回目	みんなで育て、みんなでつくる 沿道での食べられる景観事業	エディブルウェイ プロジェクトチーム		0		5	0
3	新規	「食」と「コミュニケーション」 によるつながりづくり事業	生きづらわーほり プロジェクト		0		9	
4	2回目	親子で安心、子ども達が楽しく 育つ居場所づくり事業	なないろのもり		0		15	
5	新規	冒険山開放に伴う見守り事業	冒険山開放委員会		0		19	
6	新規	《開催5周年記念》 総の国童謡作詞作曲コンクールと音楽祭の開催、及び入賞作楽譜集・音楽祭CD・DVDの作成とインターネット公開事業	音・音楽フォーラム松戸		0		23	0
7	2回目	松戸市ご当地漫画&アニメ 制作事業	超普通スタジオ	0			27	
8	新規	カンボジアオンライン講演会事業	特定非営利活動法人 なかよし学園プロジェク ト	0			31	
9	新規	コミュニケーションの知識を学 び、対人関係を円滑にする支援と 仲間作りの場事業	街のコーチング屋さん	0			35	0
10	新規	介護予防と居場所づくりを つなぐ広報事業	松戸プロジェクト パートナー	0			39	0
11	新規	菜切り包丁砥ぎ方教室事業	数値調理会	0			43	0
12	新規	四世代のきずなで、豊かな 生活環境を実現する事業	小金原みんなで わくわくする会	0			47	
13	新規	梨香台団地付近の多世代交流型 居場所事業	梨っこ食堂	0			51	
14	新規	市民参加型の「まつどオペラ」の 充実化事業	混声合唱団CORO KOKO	0			55	0
15	新規	ぶどうの家 ふれあいコンサート・ イベント事業	特定非営利活動法人 葡萄の家	0			59	0

目次(プレゼンテーション発表順)

No	区分	事業名	団体名、事業担当課名	スタート	ステップ アップ	協働	ページ	添付 資料
16	新規	金ケ作歴史散策まっぷ プロジェクト事業	金ケ作歴史同好会	0			63	
17	2回目	「まつどの介護」 プロモーション事業	特定非営利活動法人 SmileResource 介護保険課			0	67	
18	新規	日本語を母国語としない子ども のための学習支援事業	認定NPO法人 外国人			0	73	
19	2回目	松戸のイメージ向上のための コミュニケーション事業	まつどのこもりかた。編 集部 広報広聴課 シティプロ モーション担当室			0	79	
20	新規	町会・自治会の活動をPRして 親しみをもってもらおう事業	できる街プロジェクト市民自治課			0	85	
21	2回目	松戸市民向け SDGs普及啓発促進事業	まつど地域活躍塾 つながりの会	0			91	
22	2回目	料理教室を通じた 父親の意識改革事業	MAISON IZARRA Oyatsu labo * T naturel (メゾンイザラおやつラボ*テナチュレル) 男女共同参画課			0	95	
23	新規	地域まるごとで弧育てを予防 する連携システム事業	まつどでつながるプロジェクト運営協議会 子ども政策課			0	101	
24	2回目	松戸市民も 命を大切にしてみます事業	松戸地域猫スタートサ ポート		0		107	
25	2回目	発達障害・不登校等の親の会事業	あんだんて	0			111	

《 ステップアップ助成 》

ときわだいらオープンアトリエ事業

特定非営利活動法人 ディープデモクラシー・センター

事業名	ときわだいらオープンアトリエ事業
団体名	特定非営利活動法人
	ディープデモクラシー・センター

事業概要

一人ひとりの違いを認めあうことができる時間、誰かと出会い、一緒にアートを楽しめる、小さくても地域にひらかれた場、地域におけるアートとケアの場・オープンアトリエを創造します。

取り組もうとする松戸市のテーマ (課題)

縮小ニッポンといわれるように、人口減少、少子高齢化、労働力不足、貧困の拡大、人々の孤立等の問題は、松戸市においても、年間の孤独死者数は218人(2016)、出生率は1.3(2015)、なんらかの障害をお持ちの方は19,223人(松戸市民25人にひとり/2016/身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者)、児童虐待の相談件数は685件(2016)、高齢者虐待の相談件数は173人(2016)、生活保護の保護率は19.89%となっており、深刻なものといえる。私たちNPOの日々の活動においても、地域で孤立し、様々な生きづらさを抱え、誰にも相談もできず、いのちや暮らしを脅かされている方々が日々、増加していることを実感しています。世代や経済的な状況を問わず、社会的に孤立している人々が増えていることが大きな課題であり、さらにその課題が、困窮、虐待、ホームレスなど、二次的、三次的な課題へとつながっています。そして同時にそのことが、支えあい、助け合いといった共生社会、共生地域の実現を妨げています。

事業の目的

支援の現場でいつも思うことは、どうしてもっと早く相談してくれなかったのか?ということです。程度の差はあれ、社会的に孤立した状態で暮らす多くの人々が、どうしたら、SOSを出してくれるようになるのか?私たちはずっと考えてきました。必要なものは、「自己開示」と「他者理解」。そして「創造」と「想像」、私たちは、まるで違う切り口の場を持つことで、地域で孤立する人々を包摂し、互いに理解できるのではないかと考え、誰かと出会い、一緒にアートを楽しめる、小さくても地域にひらかれた場・・・、地域におけるアートとケアのための場<オープンアトリエ>が有効なのだろうという結論にたどり着きました。人間が本来持っている表現への欲望を、自由に、気軽に参加できる表現の場、一人ひとりの違いを認めあうことができる時間。誰かと出会い、一緒にアートを楽しめる、小さくても地域にひらかれた場をつくること、そしてその場を一緒につくっていく人々を育成することで、社会的な孤立に抗っていきたいと思っています

1 事業内容 事業内容 ○ときわだいらくらしラボ・オープンアトリエ(6回) 様々な表現をテーマに、外部講師を招いて、オープンアトリエを開催 ・5月 絵の具あそび(講師・こまちだたまお【たまあーと創作工房 千葉県障害者芸術文化支援センターうみのもりセンター長】/予定) ・6月 造形あそび (講師・宮下昌也【画家】/予定) ・7月 木版あそび(講師・山口マオ【イラストレーター】/予定) ・8月 演劇あそび(講師・田中智子【劇団人の森ケチャップ】/予定) ・9月 パステルあそび (講師・かのうみちよ) ・10月 現代詩あそび(講師・調整中)(作品は翌月にギャラリーにて展示) ○オープンアトリエ・スタッフ養成講座 (2回・一般参加者も募集) オープンアトリエの場をつくるスタッフの育成を、外部講師を招いて開催 講座1・オープンアトリエってなんだろう? (講師・一般財団法人たんぽぽの家/予定【講師は zoom にて講演】) 講座2・表現の場を地域につくる! (講師・こまちだたまお【たまあーと創作工房/予定) 2 スケジュール プレス、市内公共施設など 4月~ 広報活動 |スタッフ養成講座(2回)|ときわだいらくらしラボ 4月 5~10月 | オープンアトリエ (6回) | ときわだいらくらしラボ 3 広報 市内公共施設、県内関連施設等にチラシの配架を依頼(郵 送) また Web サイト、SNS でも情報やアトリエの様子を発信 4 新型コロナウイルスの感染拡大時の対応 (zoom などリモートでの代替が難しいもの) コロナウィルスの再拡大の 場合、感染防止策を徹底し、参加者数を半分にし、可能な回においては 回数を2回にして行います。 (zoom などリモートでの代替が可能なもの) リモートでの開催とします。(既存の資機材で対応可能) 私たちディープデモクラシー・センターはこれまで、NPO・市民活動団体の 既存の事業から 支援、生活困窮者、ホームレスの生活再建の支援、自然災害による被災者の ステップアップ 支援、障害をお持ちの方の社会参加の支援などを行ってきました。ひとりひ する部分 とりと向き合い、ともに歩きながら、「よりよく生きること」を追求してき (ステップアッ ました。この事業では、さらにステップアップし、社会的孤立を生まない地 プ助成のみ) 域づくりへと挑戦していきたいと考えています。 事業の目標 オープンアトリエの参加者=のべ100人 養成講座の参加者=のべ30人 参加者アンケートで 今後も参加したい=参加者の75% 今後、関わってい きたい=参加者の 70% 今後の展望 常盤平で、週1回のオープンアトリエの実施を目指し、他地域での展開も目 標にします。アートとケアが出会う場を松戸市において実現していきます。 「創造」と「想像」を考えると、私たちは他者のいとなみに自分をかさね、 「よりよく生きること」ができるのではないか・・・、地域や人々との出会 いによって生まれた創造と想像が重なり合うとき、私たちもまた、それぞれ

とができるはずだと信じて、活動していきます。

が抱える生きづらさを、あらたな眺望を見せてくれるきっかけへと変えるこ

【収入】

(単位:円)

	科目		会 額	積算内訳
	団体拠出金	¥	66, 400	事業費の一部を団体の会計より拠出
	オープンアトリエ参加費 (材料費)	¥	20,000	@200×100人
団体	養成講座参加費	¥	30,000	@1000×30人
			8	
	自己資金の合計額 (A)	¥	116,400	
市	市民活動助成金(B)	¥	300,000	
	合計額 (C) = (A+B)	¥	416, 400	

【支 出】

	科 目	3	予算額		積算内訳
	報償費 (オープンアトリエ講師謝金)	¥	180, 000	@30,000×6回	
	報償費 (養成講座講師謝金)	¥	60, 000	@30,000×2回	
助	印刷製本費	Y	20,000	チラシ印刷外注	@10×1000枚×2種
成金	委託料	¥	20,000	チラシデザイン	@10,000×2種
の交	通信運搬費	¥	8, 400	定形外郵便	@140×60 (施設)
付 対	消耗品費	¥	50,000	絵の具@1,000×15	パステル@1,500×15
象経				粘土@400×15	木材@100×30
費				文具、用紙 3,500	
	対象経費の合計 (D)	¥	338, 400		
	講師交通費	¥	18, 000	@3,000×6	
そ	交通費	¥	40,000	当日スタッフの交通費	1,000円×5人×8回
の他経	食料費	Y	20,000	当日スタッフの昼食代	500円×5人×8回
費	その他経費の合計 (E)	¥	78, 000		
合計	A (F) = (D+E)	¥	416, 400	#/	

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

《 ステップアップ助成 》

みんなで育て、みんなでつくる 沿道での食べられる景観事業

エディブルウェイプロジェクトチーム

事業名	みんなで育て、みんなでつくる 沿道での
	食べられる景観事業
団体名	エディブルウェイプロジェクトチーム

事業概要

沿道の住宅前や店舗前等で、野菜やハーブなど食べられる植物を育てる「食べられる景観」づくりを通し、住民の交流を促進し、人と人のつながりやコミュニティの輪を広げる。植物クラフトづくりから、地域環境を学び合う場を創出する。

取り組もうとする松戸市のテーマ(課題)

新型コロナウィルス感染予防のため、外出を控え、対面での交流を減らす等の対策がとられてきました。プロジェクトの中心地域である松戸三丁目東自治会でも各イベントが中止になっています。日本老年学的評価研究は、社会的孤立や閉じこもりが高齢者の健康リスクを高めることを指摘しています。ウィルス対策が長期化する中、いかに社会的距離を保ち、コミュニケーションがとれるかが今後の地域社会において、重要な課題と考えられます。

私たちは、2016年より、コミュニケーションを促し、コミュニティの形成に寄与するとされる「食べられる景観」づくりを行なってきました。コロナ禍において沿道での園芸活動は、近所同士の挨拶程度の交流の維持、プランターを見て楽しむ、歩行を促し健康維持への貢献、植物が育つ様子を見ることで、参加者同士の間接的なコミュニケーション等に役立っています。

園芸活動、植物を使ったものづくり活動を媒介にした直接的・間接的なコミュニケーションから、コロナ禍の地域において人のつながりが分断されない健康的な生活環境づくりに取り組みたいと考えています。

事業の目的

野菜やハーブを用いたユニークな景観づくりと沿道でのコミュニケーション機会の創出から、日常的に挨拶できるひ近所づきあいを増やすこと。また、育てた植物を使ったものづくりを通じ、地域環境を学び合う機会や、多世代での交流の機会をつくること。そして、コロナ禍の地域においても、人のつながりが分断されない地域を目的としています。

事業内容

1. 事業内容

年間を通じて、野菜やハーブを育て、食べられる景観づくりを行います。 また、各講座(1)(2)(3)は、外部講師を招き、地域での学び合いの場を充実させ ます。各回とも、新型コロナウィルス感染症予防対策を行い、実施します。

(1) プランターへ苗植え講座開催と植え替え活動 (4-5 月・9-10 月)

- ・2022 年度から、沿道の住宅・店舗だけではなく、これまで要望があったマンション住民のベランダでの参加をサポーター会員として募る。SNS で菜園活動の情報発信や植え替えサポートを条件とする。
- ・苗の植え方講座を開き、野菜の育て方を学ぶ。(会場・zoom 併用で開催)
- ・高齢者宅など、必要に応じ、植え替えサポートを行う。サポートは、サポート会員や、地域で中高生ボランティアを募り、実施する。
- (2) 子ども向けクラフトワークショップ(以下 WS と記載)の開催(6・11月)
- ・植物クラフト WS を開催し、ものづくりを通した学びと交流の場を設ける。
- (3) ハーブクラフト講座 (7・12月)
- ・大人向けにハーブを活用した講座を行い、ハーブの使い方、楽しみ方を 学ぶことで、活動への意欲向上と交流を進める。

	T								
	(4)情報発信:千葉大学学生有志グループみどりの回廊ワーキンググループと								
	発行する瓦	版への毎月の掲載・配布。	SNS、ホームページでの情報発信。						
	(5)アウトブ	『ット作成:1年間の活動の	振り返りをし、冊子を作成し、参加者、						
	地域住民に配布し、活動への理解と参加・協働を促進する。 2. スケジュール								
	2. スケ:	ジュール							
	実施月	具体的な取り組み	①実施体制、②対象、③場所など						
	4-5月・	講座準備、チラシ配布に	①実施体制:会員有志、外部講師、						
	9-10 月	よる告知、新規参加者・	②対象: EW 参加者、③場所: 松戸三						
		学生メンバー募集、	丁目東自治会館または市民会館						
		(1)苗植え講座、植え替え							
-	6月・	(2)クラフト WS 開催	①会員有志、外部講師、②EW 参加者、						
	11月		地域の小学生、③自治会館または市 民会館						
	7月・	(3)ハーブクラフト講座開	①会員有志、外部講師、②EW 参加者、						
**************************************	12月	催	地域住民、③自治会館または市民会						
			館						
	1~3月	振り返り・アウトプット	①会員有志、②会員・地域住民						
pre de la designation de la constantina della co	> h ± 7	作成・地域へ報告							
既存の事業から			の参加者を石垣にフランターを設直でりをメインに行ってきた。沿道での景						
ステップアップ			続し、人とのつながりをさらに地域に						
する部分			就し、人とのうながりをさらに地域に たマンション住民のベランダでの参加						
(ステップアッ	0000 0 0000 000 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		の幅を広げる。マンション住民は地域						
プ助成のみ)	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		このつながりが希薄であることが多い。						
			での発信、沿道の高齢者参加者の植え						
		erz v. v. v. v. zeminież	れにより、協働とコミュニティの輪を						
		びずに励力してもらり。こ げることや、活動の持続性							
			講師を招くことで、景観づくりとして						
			実した講座を提供する。講座で得られ						
1 14			今後の活動の発展性や継続性のために						
	The state of the s		食べられる景観づくりに関心のある市						
		、身近な地域環境づくりの							
本米 4 日 年			設置場所を増やし、沿道での緑のつな						
事業の目標			見10箇所)サポーター会員を募り(新						
			加の機会を増やし、地域コミュニティ						
	の輪を拡大								
			た地域において、沿道で見て楽しむ、						
	歩く楽しみを提供する。								
	・植物を用いたイベントの開催を行い、学びや交流の場づくりを通して、活								
	動を継続するための知識共有や組織づくりを進める。								
今後の展望・食べられる景観づくりの地域景観や活動としての定着。									
		1へも、食べられる景観づく	The control for the April Apri						
			分断されない健康的な生活環境のあり						
		皆さんと考えていく。							
	・植物を沿	i用する店動を通し、地域環	境を学び合う場づくりの創出を行う。						

	科 目		金 額	積算内訳
	イベント(WS・講座)参加費	¥	60,000	植え替え講座、クラフト・アートWS、ハーブ講座 各2回 (500円*20人)6回開催
_	団体拠出金	¥	13,540	対象事業費の一部及び対象経費を団体の会計より拠出
団体				
	自己資金の合計額 (A)	¥	73,540	
市	市民活動助成金(B)	¥	300,000	
	合計額(C)=(A+B)	¥	373,540	

【支 出】

	科目	7	算額	積算内訳
	報償費	¥	90,000	講座外部講師謝礼金(15,000円*6 回)
助成金の交付対象	消耗品費	¥	143,300	[プランター栽培] ・フェルトプランター(400円*40個) ・ブランターロゴ印刷シルクスクリーン版(3000円) ・シルクスクリーンイン(3000円*2個) ・土再生材 5L(400円*60個) ・野菜苗(200円*50個) ・タネ(300円*20個) [クラフト] ・クラフト材料費(フェルト、蜜蝋、麻紐など)(5000円*2回) ・クラフト道具類一式(ナイフ、工具等)5000円 ・ハーブクラフト材料費(花材、アロマオイルなど)(5000円*2回) ・ハーブクラフトは具類(ボウル、ビーカーなど)5000円 [活動全般] ・ブリンタートナー(告知チラシ、講座・WS資料等印刷)(4200円*4色) ・腕章(ボランティア用)(500円*6個) ・芝男類に(スタッフ用)(1500円*6個) ・参考書籍(園芸・クラフト等)(2000円*3冊) ・台車(8500円)
経費	使用料及び賃借料	¥	25,200	*zoom(2ヶ月分)(講座(1)2回)2000円*2回 *モバイルWi-Fi(1泊2日 * 講座(1)2回)1000円*2回 *自治会館(イベント6回・準備&打ち合わせ6回)1600円*12回
	食糧費	¥	12,600	·参加者お茶代(100円*20人)*6回 ・講師お茶代(100円*6回)
	通信運搬費	¥	4,200	・植え替え時アンケート回収用切手 84円* 25世帯(メールなし)*2回
	印刷製本費	¥	62,000	・瓦版印刷費(A4両面カラー・プリントネット)10円*100部*12ヶ月・アウトプット冊子印刷製本(A5・20ページ)80円*500部・活動広報チラシ(A4両面カラー)10円*1,000部
	保険料	¥	2,240	・ワークショップ保険料 20名まで560円*4回
	対象経費の合計(D)	¥	339,540	
	お弁当代	¥	12,000	講座・植え替えサポートスタッフ・ボランティア 500円*12名*2回
その	交通費	¥	17,000	・植え替え資材運搬レンタカー(4000円*2回) ・スタッフ電車代(3名分往復1500円*イベント6回)
の他経費	使用料及び賃借料	¥	5,000	・ホームページサーバーレンタル年間 3000円 ・ホームページドメイン年間 2000円
	その他経費の合計(E)	¥	34,000	
— 信	·額(F)=(D+E)	¥	373,540	

- 1 助成金(B)が対象となる経費(D)欄の90%以内、自己資金(A)欄が対象経費(D)欄の10%以上であること。
- 2 助成金(B)が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円 以内であること。

《 ステップアップ助成 》

「食」と「コミュニケーション」 によるつながりづくり事業

生きづらわーほりプロジェクト

事業名	「食」と「コミュニケーション」によるつ
	ながりづくり事業
団体名	生きづらわーほりプロジェクト

事業概要

ひきこもり当事者が集う場「つたわり」を軸にして、本人の状態や希望に応じて参加できる自宅 でのたい肥づくり・ハーブ栽培、食と健康講座、コミュニケーションワークショップを開催する。

取り組もうとする松戸市のテーマ (課題)

生きづらさを抱えひきこもり状態に陥ってしまった人達(以下「当事者」という)は、人口の1~1.5%程度いるとも言われ、非常に多く存在していることが明らかとなってきた。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、失業や精神的なストレスを抱えて、人との繋がりが断たれてしまい、ひきこもり状態に陥ってしまうケースも懸念される。昨今多くのメディアでひきこもりに関する特集が組まれ、支援の重要性について関心や認識が高まっており、松戸市でも相談窓口の整備などが進められているところであるが、当事者をサポートする仕組みはまだ十分とは言えない状況である。

事業の目的

一口に「ひきこもり」といっても、外出するのが難しい当事者や外出はできても就労や地域の人と接するには不安がある当事者など、一人ひとり状態は異なることから、当事者の状態や希望に即してきめ細かくサポートを行う。

事業内容

1 事業内容

①生きづら Cooking-Meeting「つたわり」「つたわりミニ」(12回)

当事者が集まって、みんなでランチを作り、一緒に食べながら楽しく会話をして過ごす場「つたわり」と、会話を中心とした簡易バージョン「つたわりミニ」を開催する。オンライン会議ツールも併せて活用し参加しやすくする。「安心して過ごせる場・話せる場」があることで、当事者が外に出ていく端緒となりやすく、またそのような場で過ごすことで人と話す経験を得たり、他の当事者との情報交換を行ったりすることができる。

②たい肥づくり・ハーブ栽培によるつながりづくり(随時)

外出や人と接することが難しい状態の当事者に、コンポスト容器を提供して自宅で出た生ごみからたい肥を作ったり、ハーブ栽培キットを提供しハーブを育ててもらう。当事者が作成したたい肥やハーブは、「つたわり」のほか、「まつど SDGs ノウエン」や「こども食堂」などの市民団体と連携して利用してもらう。その様子を当事者にフィードバックすることによって、当事者は自宅に居ながら外の人とのつながりを感じてもらうことができる。

③食と健康講座 (2 日間×1 回):外部講師 飯田恵美子氏、佐藤健太氏による講座

当事者にとって外に出て社会とつながるには非常に大きなエネルギーが必要となるが、当事者はあまり健康的とは言えない生活をしていることが多いことから、しっかりと食事をして栄養を摂り、健康的に過ごすことを学ぶ。なお、新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン開催とする。④コミュニケーションワークショップ(2日間×2回):外部講師 小林千芳氏、宮原志帆氏によるワークショップ

コミュニケーションに苦手意識を持っている当事者向けのワークショップ

	を開催する	る。具体的には、身体を動か	し、声を出すことで、緊張し固まって						
	いる状態をほぐす「ボイストレーニング」、アサーション(相手を尊重しな								
	がら自分の意見を発する)の要素も取り入れ、コミュニケーションを実践し								
	ながら学	ぶ「コミュニケーション講座	」を実施する。当事者がコミュニケー						
	ションにつ	ついて学び、意欲を高めるこ	とで、社会参加への準備を促進する。						
	なお、新型	ジョロナウイルス感染症の状	況によってはオンライン開催とする。						
	2 スケジュール								
	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など						
	4	①つたわりミニ開催	①運営スタッフ2名、まつど市民活						
8			動サポートセンター 会議室						
	5	①つたわりミニ開催	①運営スタッフ2名、まつど市民活						
		②たい肥づくり・ハーブ	動サポートセンター 会議室						
		栽培参加者募集開始	②運営スタッフ3名、松戸市内各所						
	6~7	①つたわりミニ開催	①運営スタッフ2名、まつど市民活						
			動サポートセンター 会議室						
	8	①つたわり開催	①運営スタッフ3名、まつど市民活						
			動サポートセンター 調理室						
	9	①つたわりミニ開催	①運営スタッフ2名、まつど市民活						
		③食と健康講座	動サポートセンター 会議室						
-			③同3名、同調理室						
12	10	①つたわりミニ開催	①運営スタッフ2名、まつど市民活						
		④コミュニケーションワ	動サポートセンター 会議室						
	0.0	ークショップ開催	④同3名、同大会議室						
	11	①つたわり開催	①運営スタッフ3名、まつど市民活						
			動サポートセンター 調理室						
	12~1	①つたわりミニ開催	①運営スタッフ2名、まつど市民活						
0			動サポートセンター 会議室						
* ************************************	2	①つたわりミニ開催	①運営スタッフ2名、まつど市民活						
		④コミュニケーションワ	動サポートセンター 会議室						
£		ークショップ開催	④同3名、同大会議室						
8	3	①つたわり開催	①運営スタッフ3名、まつど市民活						
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	700		動サポートセンター 調理室						
既存の事業から	これまで気	実施してきた当事者が集まる	場づくり(つたわりミニ)を軸にして						
ステップアップ	さらに対象	泉を広げて、外出が難しい状	態の当事者や外出はできるが社会活動						
する部分	への参加や	P就労に不安がある当事者に	向けた事業にも取り組んでいく。						
事業の目標	社会につながろうとするひきこもり当事者が増える。								
1 1 N	【「つたわり」「つたわりミニ」参加人数 60人(各回平均5人)】								
*.	【たい肥づくり・ハーブ栽培参加人数 15人】 ・当事者の社会参加に対する自信と行動する意欲を高める。								
	【食と健愿	表講座参加人数 8人】							
	【コミュニ	ニケーションワークショップ	参加人数 計16人(各回平均8人)】						
今後の展望	ひきこもり)以外のいろいろな分野で活	動している地域の市民団体・NPO との						
# I,	つながりを	を作る。それらの団体と連携	し、行動できる状態となった当事者が						
*	地域社会と	こつながりを作れるようにす	る仕組みづくりを行う。						

【収入】

(単位:円)

	科 目		額	積算内訳
	団体拠出金	¥	38, 868	事業費の一部を団体の会計より拠出
	「つたわり」「つたわりミニ」参加費	¥	18, 000	300円×5人×12回
団体	「食と健康講座」参加費	¥	8, 000	1000円×8人×1回
	「コミュニケーションワークショッ プ」参加費	¥	16, 000	1000円×8人×2回
	自己資金の合計額 (A)	¥	80,868	
市	市民活動助成金(B)	¥	300,000	
Ju.,	合計額 (C) = (A+B)	¥	380, 868	

【支 出】

科目	予算額	積算内訳		
		外部講師謝礼 (食と健康講座)	25,000円×2人×1回	
報償費	¥ 150, 000	外部講師謝礼 (コミュニケーション ワークショップ)	25,000円×2人×2回	
		LFCコンポストセット (たい肥づくり・ハーブ 栽培)	4,268円×5人	
		ハーブ栽培キット (たい肥づくり・ハーブ 栽培)	550円×4個×10人	
		台ふきん (つたわり)	300円×1箱	
消耗品費	¥ 58,860	洗剤、スポンジ (つたわり)	550円	
		コップ (つたわり)	550円	
		講座用食材 (食と健康講座)	800円×8人×2日×1回	
		マーカー (コミュニケーション ワークショップ)	1,320円×1セット	
		食材、飲み物 (つたわり)	800円×5人×3回	
食糧費	¥ 20,500	参加者用お茶菓子 (つたわりミニ)	100円×5人×9回	
		参加者用お茶菓子 (コミュニケーション ワークショップ)	1,000円×2日×2回	
		チラシ印刷 (たい肥づくり・ハーブ 栽培 両面4色 300部)	7. 434円×300部	
	\$\tilde{\pi}\$	チラシ印刷 (つたわり 両面4色 300部)	7.434円×300部×3回	
		チラシ印刷 (食と健康講座 両面4 色 300部)	7. 434円×300部	

対象経費	印刷製本費	¥	65, 348	リークショップ 両面4 色 300部)	7.434円×300部×2回
				当日配布資料コピー (食と健康講座)	10円×60枚×1回
				当日配布資料コピー (コミュニケーション ワークショップ)	10円×60枚×2回
				活動紹介小冊子 (A5 中綴じ 20ページ 両面カラー マット紙 表紙少し厚手 本文薄手 1000部)	47. 938円×1000部
				会場使用料 (つたわりミニ まつど 市民活動サポートセン ター 会議室)	220円×4時間×9回
				会場使用料 (つたわり まつど市民 活動サポートセンター 調理室)	380円×5時間×3回
	使用料および賃借料	¥	54, 120	会場使用料 (食と健康講座 まつど 市民活動サポートセン ター 調理室)	380円×6時間×2日×1回
				会場使用料 (コミュニケーション ワークショップ まつど 市民活動サポートセン ター 大会議室)	660円×6時間×2日×2回
				オンライン会議使用料 (ZOOMプロ 1ライセン ス 年間使用料)	20, 100円
	保険料	¥	5, 040	イベント行事用保険(つたわり、食と健康講座、コミュニケーションワークショップ)	560円×9日
	対象経費の合計(D)	¥	353, 868		
				運営メンバーの交通費 (つたわり)	600円×3人×3回
そ				運営メンバーの交通費 (つたわりミニ)	600円×2人×9回
の他経	交通費	¥	27, 000	運営メンバーの交通費 (食と健康講座)	600円×3人×2日×1回
費	; ;			運営メンバーの交通費 (コミュニケーション ワークショップ)	600円×3人×2日×2回
	その他経費の合計(E)	¥	27, 000		
合計	額(F)=(D+E)	¥	380, 868		

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

《 ステップアップ助成 》

親子で安心、子ども達が楽しく育つ 居場所づくり事業

なないろのもり

事業名	親子で安心、子ども達が楽しく育つ居場所 づくり事業
団体名	なないろのもり

事業概要

続くコロナ禍で、子どもの発達期に必要な経験や出会いの機会が奪われている。子ども達が未来 に希望を持てるように、子ども達や子育て世代の家庭に寄り添う地域コミュニティを構築し、親 子一緒に参加できる、子ども達の楽しい長期休みの思い出づくりの機会や学校と家庭以外の安心 できる第3の居場所づくり。

取り組もうとする松戸市のテーマ (課題)

昨年に続き子ども達にとって大きな楽しみである学校行事は中止が相次ぐ中で、子ども達は仕方ないと受け入れながら、先行きの見えない不安な毎日を送っています。学校生活でも、友だちとは距離をとり、食事は誰かと目を合わせることもなく、黙って前を向いて食べ、消毒をする…。

長期にわたる影響がつもり、以前よりストレスが大きくなって心や体に変化が生じていて、小学生の15%、中学生24%、高校生の30%に中等症のうつの症状がみられたと、国立成育医療研修センターの「コロナ×子どもアンケート」第4回の調査でわかりました。同様に小学4年生以上の保護者の29%も同様の傾向あるそうです。第5回のアンケートではさらに、子ども達の回答で「先生や大人への話しかけやすさ、相談しやすさが減った(51%)」と保護者の回答で「子育てについて気楽に話せる相手や機会が減った(60%)、「子育てについて相談できる公的な場や機会が減った(72%)」などの回答からも、孤立感が深まっていく中で子育てをしている家庭が増え、子ども達も知らず知らずのうちにストレスを溜め込んでいってしまう状況なのは明らかです。

緊急事態宣言下では、予定のイベントの開催がままならず、特に大きなイベントは開催ができておりませんが、今年度より未就園児と保護者を中心とした居場所「おやこのにわ」を数回開催し、来場してくださった方々からは、特に未就園の子ども達の行き場の無さ、また公園に行っても気軽に話せる相手もおらず、感染の不安もあるため、出かけても孤立感が増す。お家に籠もっているため、親子でイライラしてしまう。などと…切実な声を多くいただきました。松戸市が子育てしやすい街であることを、松戸に住む子育て世代全体が実感でき、大人達が楽しんでる姿を見た子ども達は、安心してのびのび育ち、将来もこの街に住み続けたいと思えるようなプラスの循環を地域から実践していきたいと思っております。

事業の目的

子ども達の家庭や学校、習い事以外の遊び・学びの場づくりを目的とします。 親子一緒に参加できるイベントや居場所を開催し、地域と繋がりをつくる機 会を得たり、一緒に楽しい時間を共有することで、子ども達は安心し、親た ちは子育ての楽しさを実感できます。閉塞感漂う今こそ、子育てに孤立感を 感じずに、子ども達は地域で育つという安心感を得るような、空間や時間を 継続して確保していきます。また、今後の感染状況が、どのような状態であ っても、安全第一に柔軟に対応できるよう、体制を整えていきます。

事業内容

- 1 事業内容
- ① 親子で一緒に参加できる夏休みワークショップ・夏まつり
 - ・地域の大人達が講師となるワークショップの開催 (調理・農業・運動・音楽など幅広いジャンルの外部講師 4名)
 - ・参加方法は各家庭の都合やその時の社会情勢に合わせて選択が可能 (近隣施設での講座・ZOOM を使用したオンライン講座・動画配信など)
- ② 子ども達と子育て世代の居場所づくり(週1回程度)
 - ・子ども達と親子の遊び場の開催
 - ・定期開催をし子育て世代の親子を中心に、地域の人たちも ふらっと立ち寄れるような居場所を目指します。
- ③ 本年度7回目となるクリスマスフェスティバルを今後も継続できるよう に、地域のイベントとして周知拡散させていく。
- ※各イベント・居場所で ZOOM を使用したオンラインでのおしゃべり会など の交流の選択肢を広げることを試験的に行う。
- 2 スケジュール

実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4~7月	イベント準備・講師・ス	リーフレット・チラシ作成、配布・
	タッフ・会員募集	講師打ち合わせ講座準備
7.8月	① 夏ワークショップ	サポセンや近隣の施設など(講師 4
	・夏まつり開催	名・イベントスタッフ5名)
通年	② 居場所の開催	椿の庭・サポセンなど(週1回ペー
		ス・見守り延べ 120 名(外部 40 名
		内部 80 名)
9月~	イベント準備・出展者や	チラシ作成、教育施設や商店を中心
	協賛者の募集、周知	に近隣地域への認知を目標
12月	③ クリスマスフェステ	サポセン、音響設備が整った施設
	ィバル開催	(イベントスタッフ5名)
1~3月	ふりかえり	

既存の事業から ステップアップ する部分

(ステップアッ プ助成のみ) 引き続き活動を縮小せざるを得ない状況でありますが、コロナ禍において子ども達がのびのびと楽しく、安全に過ごせる学校や家庭以外の居場所。子育て世代が地域と繋がりをもてる居場所の需要と必要性を実感しています。今までの事業をさらに定着させつつ、また継続的に子ども達と子育て世代の家庭と繋がっていけるような団体であり続けたいと考えます。そして今後も、社会情勢・地域の声をききながら、柔軟に対応し。場所や環境、形を変えて、イベント・居場所の開催を継続していきたいと思います。

事業の目標

- ① 夏まつり・ワークショップ延べ参加人数=120人
- ② 居場所延べ参加人数=150人
- ③ クリスマスイベント延べ参加人数=400人

今後の展望

この事業を通して、なないろのもりが日常的に子ども達や子育て世代を中心に安心して通える居場所、また地域の様々な年齢層の方々とつながれる場所として定着し、年齢も環境も様々な人が集まる場所でコミュニケーション能力を育む機会を持つことで、子ども達は視野を広げのびのびと成長し、親も同様に様々な多様性に目を向ける機会を得ることで、広い視野で子育てでき、我が子の良いところを再発見し、楽しく子育てできる街にしていきたい

【収入】

(単位:円)

科 目		金	額	積算内訳
団	事業収入	¥		サポーター年間登録料 個人2000円×18 地域商店3000円×4 企業5000円×8
団体		¥		ワークショップ参加費 800円×60名 夏まつりあそび券300円×60名 18000円
	自己資金の合計額 (A)	¥	154,000	
市	市民活動助成金(B)	¥	300,000	
	合計額 (C) = (A+B)	¥	454, 000	

【支 出】

-	科目		5算額	積算内訳
	報償費	¥	129, 000	ワークショップ講師謝礼15000円×2名 12000円×2名 居場所・見守りスタッフ謝礼1500円×40人 イベントスタッフ謝礼1500円×10名
	委託料	¥	40, 000	イベント・宣伝チラシデザイン制作費5000円×4 イベント装飾製作費5000円 HP制作・管理5000円 地域新聞折り込み代10000円 (年間リーフレット1500枚・Xmas1500枚)
助	消耗品費	¥	55, 100	プリンターインク7000円×3 イベント消耗品9000円 (ガムテープ養生テープ他) 居場所消耗品5000円 (遊び道具・虫よけスプレー・蚊取り線香他) Xmasイベント装飾9000円 コピー用紙・模造紙1100円
成金の				感染防止対策グッズ10000円 (消毒液600円×10本 予備マスク600円×5箱 他)
0 交付対象	印刷製本費	¥	39, 340	イベントチラシ夏・居場所 各4000枚 (1枚2.145円×8000枚) なないろのもり年間リーフレット・Xmas 各5500枚 折込用含む (1枚2.0164円×11000枚)
系 経費	使用料及び賃借料	¥	148, 600	イベント打合せ・準備施設使用 (第一会議室440円×10回) 動画撮影・リハーサル施設使用 (多目的ホール1100円×10h) zoom有料版使用料2200円×6ヶ月 (7月夏ワークショップ、12月Xmas festival 、 他4カ月居場所で試験的にオンラインおしゃべり会予定) 居場所フリースペース使用料3000円×40回
	保険料	¥	14, 560	イベント保険 夏まつり・WS120人×28円 Xmas400人×28円
	食糧費	¥	6, 400	ワークショップ参加者 飲み物100円×60人 ワークショップ・全講師 飲み物100円×4人
	対象経費の合計 (D)	¥	433, 000	
	報償費	¥	10, 000	見守り内部スタッフ料2000円×5名
その出	食糧費	¥	6, 000	飲み物100円×10名 ボランティア昼食代500円×10名
他経費	交通費	¥	5, 000	交通費1000円×5名
	その他経費の合計 (E)	¥	21, 000	
合	†額(F)=(D+E)	¥	454, 000	

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上である
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり $\hat{\text{U}}$ 内であること。

《 ステップアップ助成 》

冒険山開放に伴う見守り事業

冒険山開放委員会

事業名	冒険山開放に伴う見守り事業
団体名	冒険山開放委員会

小金北小学校にある遊具施設(冒険山)を開放し、地域を超えた子ども達が、自由 に、安全に遊べるよう、その見守り活動と・体験広場を開催し、用具の準備・工材 の購入・工作のアドバイス等を行う。

取り組もうとす る松戸市のテーマ(課題)	近年小学生の7割が、外で遊ばないというデーターが出ております。子ども達の遊ぶ時間・場所がない・仲間づくりができない等がその要因です。 そこで小金北小学校にある遊具施設(冒険山)を休日に開放し、自由に遊べる場所と、時間を提供し、健全な仲間つくりの醸成のため、その見守りと、体験広場・イベントを開催する。
事業の目的	冒険山を開放し、危険を自分自身で感じられる自立心と挑戦力の醸成に寄与すること。また地域を超えた子ども達が遊びを通じて集うことにより、子ども達の視野を広げ、相互の存在を認めあえる場の提供等を目的とします。
事業内容	1 事業内容 ①冒険山開放日の参加者見守りと、各種体験広場の開催。 (冒険山開放日:毎月第1・2日曜日1時から4時) ②体験広場:(竹馬騎乗体験・竹ぼっくり遊び・ストラックアウト・凧つくりと大会・こま回し、工具を使い各種木材作品作り・けん玉・焼き芋大会料理教室の開催等。) ③焼き芋の集い(場所中金杉浅間公園募集50名他スタッフ30名)参加者が増えた中で焼き芋の待ち時間を短縮するために、外部業者に芋の下処理をお願いすることにしました。レンタルの焼き芋機とバーベキュー台で焼き作業を行い大量の場合でも対応できるようにします。
	 ④オンラインセミナーの開催 講師 下正宗(前東葛病院院長)2回 ・コロナ禍における夏休みの過ごし方をテーマに ・子どもとコロナ感染症対策(対象人数30名) ⑤オンラインセミナーの開催 講師 大久保俊樹(亜細亜大学教授)2回 ・子どもと遊び ・幸せになる子育てヒント(対象人数30名) ⑥ソーメン流し 場所小金北小学校(対象小学生100名) ⑦凧揚げ大会 場所 坂川土手周辺、(対象人数小学生50名)

	2. スケジョ	ュール(必要に応じて打ち合	わせを行う、会場中金杉青年館)					
	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など					
	4~3月	①開放時の見守り②体験広場	隊員:2~4名・北小校庭					
	6月	⑤オンラインセミナー	講師 大久保俊樹					
		の開催	亜細亜大学教授					
95 m	7、8月	⑥ソーメン流し	小金北小学校校庭					
- 70	11月	③焼き芋の集い	中金杉浅間公園					
		④オンラインセミナー	講師 下正宗					
			前東葛病院院長					
	1月	⑦凧揚げ大会	坂川土手周辺					
	・オンラインセミナー、各イベントの告知はその都度作成します。							
	※セミナー2回分については期中に実施、内容検討中。							
既存の事業から	・オンライン	/セミナーの実施を年間4回	開催する。					
ステップアップ	12.00		しいので、ZOOMを使って小規模のセ					
する部分			遊び」が中心ですが子どもに対する					
(ステップアッ	ことに悩まれ	いている親に対してアプロー	チします。					
プ助成のみ)								
事業の目標	① イベントを強化することによって、遊ぶ楽しさを子供たちに理解しても							
T.N. P.I.N.	らい、普段の開放日の参加者の増加を図る。目標 20 名以上。							
	小金北小だけでなく近隣の小学生にも参加を呼び掛けて拡大する ② 継続的な事業の展開を目指すには、見守り隊の人員体制の強化が必要す。一回あたりは2~4名。見守り隊員は延べ15名体制。							
		ンセミナーの参加者目標は						
			50 7 6 7 5 8					
A.W. 本民間	・「ヹ゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゚゚ヹ゚゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙	たの健やかた成長を願って	」というテーマで活動を続けてお					
今後の展望			環境はますます厳しさを増してお					
	ります。	MILT CONCOUNT OF C	order of the contract of the c					
		を作り出した原因の中には	親世代が作り出した問題もありま					
			用して、子育て世代にも理解をい					
	9。 こ一集云、神輿云などの機云を利用して、丁胄で世代にも垤脾をいしただけるように働きかけていきます。							
		7 1970 11 7 11 10 10 17 10						
	・冒除山け、	小学生なら誰もが咸じる妻	晴らしい遊び場です。その遊び場					
			ら誰もが楽しめる場所としてさら					
		と考えております。						
	, _,_,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	- 1,2 1,2 / 5	*					

【収入】

(単位:円)

	科 目	金	額	積算内訳
	関係団体寄付金	¥	20, 000	近隣町会からの寄付金
	団体拠出金	¥	18, 850	事業費の一部を団体の会計より拠出
団体				
	自己資金の合計額 (A)	¥	38,850	
市	市民活動助成金 (B)	¥	169,650	
	合計額 (C) = (A+B)	¥	208, 500	

(支出)

	科 目	3	算額 .		積算内訳
	報償費	¥	40, 000	講演会謝礼 お礼 (10,000×4回)	
			85, 000	流しそうめん食材40,000	材料代 @400×100人 (そうめん代、氷代、麵つゆ代 ガス代、割りばし、容器など)
	消耗品費	¥		焼き芋 30,000	材料代 @600×50人 (芋代、ガス代、炭代他 割りばし、容器など)
	TOPULL A			凧あげ 5,000	材料代 @1000×5 (凧、タコ糸代他)
助成金の				コピー用紙インク代 10,000	インク代 8,000 @1,000×8 コピー用紙代 2,000 @500×4
の交付対象	使用料及び賃借料	¥	25, 500	打合せ会場使用料 9,000 焼き芋機レンタル料 16,500	中金杉青年館 @1,500×6回 @16,500×1台
経費	印刷製本費	¥	8, 000	コピー代 パウチ代	(カラー@10×700) (@10×100)
	委託料	¥	20, 000	サツマイモ調理委託	蒸気にて加熱処理
	保険料	¥	10, 000	行事保険	見守り@600×10 イベント@2,000×1 @1,000×2
	対象経費の合計 (D)	¥	188, 500		
	食糧費	¥	20, 000	見守り飲み物	昼食代
その他経					
費	その他経費の合計 (E)	¥	20, 000		
信	額(F)=(D+E)	¥	208, 500		

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

《 ステップアップ助成 》

≪開催5周年記念≫総の国童謡作詞作曲 コンクールと音楽祭の開催、及び 入賞作楽譜集・音楽祭 CD・DVD の作成と インターネット公開事業

音・音楽フォーラム松戸

事業名	≪開催 5 周年記念≫ 総の国童謡作詞作曲コンク
	ールと音楽祭の開催、及び入賞作楽譜集・音楽祭
	CD・DVD の作成とインターネット公開 事業
団体名	音・音楽フォーラム松戸

事業概要

童謡作詞作曲コンクールを全国規模で公募し専門家による審査会により入賞作品を決定する。結果は音楽祭において表彰し入賞作品は当音楽祭において演奏するとともに楽譜とCD・DVDを作成して入賞者、音楽関係者(松戸市民含)に配布。市外の希望者には販売する。データはCD・DVD作成だけでなくアーカイブとしてインターネットに公開し全国に周知する。

取り組もうとす	松戸の音楽文化の活性化と創造をテーマとする。特に本事業は童謡(子守歌
る松戸市のテー	含)の継承と新たな歌の発掘を通して、松戸の豊かで活力ある地域社会の実
マ (課題)	現に貢献すると同時に、松戸のすばらしさを全国に向けて発信する。
事業の目的	今回第5回となる本事業は≪記念事業≫と位置づけ、活動を継続するととも
	に、その内容を振り返りつつ、より充実拡大して次につなげていくことを目
	指している。具体的には以下の通り。
	・活動内容の継続と充実
	・特に市民へのコンクール・音楽祭の周知と参加を促す
	・市民グループ等との連携(合唱団等の連携により童謡を市民に広げ童謡
	運動として定着させる・・多くの人々の参加を目指す)

事業内容

1 事業内容

- ・童謡作詞作曲コンクールの実施
- ・童謡音楽祭(松戸市民劇場)の開催(表彰式・入賞作品初演含)
- ・童謡集(入賞作品集)の出版
- ・CD・DVD 作成
- ・アーカイブの作成(インターネット公開)・過去の童謡祭の音源含む

2 スケジュール

2 スケジ:		
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月	計画・進捗状況の確認	実行委員会立ち上げ(本会の役員会
		組織がそのまま実行委員会として機
		能する)・役員会(市内)
4月	コンクール審査員依頼	実行委員会・審査員、市内(喫茶店)
5月-7月	コンペ募集要項・チラシ等	実行委員会・全国、市内(同上)
	作成・配布、団体交流	各市民団体等
8月	コンクール準備作業	実行委員会・市内(同上)
9-12 月	作品募集・審査、発表	実行委員会・全国、市内(同上)
12-2 月	童謡音楽祭準備	実行委員会・市内(同上)、印刷所
10	童謡作品集作成	応募楽譜等コピー含む
3月	童謡音楽祭開催	実行委員会・松戸市民及び全国、市内(同上)
	CD・DVD 作成、童謡集・	実行委員会・市内(同上)
	DVD 配布、アーカイブ構	入賞者、関係諸氏、市民、全国、関係
	築とネット配信、関係各	各所
	報告書作成・提出	

1. コンクール・童謡音楽祭のさらなる周知と理解を目指す 既存の事業から 2. 童謡集の内容と出版数の拡張及び配布先拡大 ステップアップ 3. CD・DVD 作成と配布 する部分 4. アーカイブ作成とネット配信(過去のデータ含む) (ステップアッ プ助成のみ) ※ 特に上記3及び4は新たな取り組みである。 目標の達成 事業の目標 1. 特に市内の全小・中・高校生へのコンクール、童謡祭の周知と参加へ の呼びかけ 2. コンクールの応募について、音楽教育の観点から、特に小学生の参加 小学生部門・・・最低でも 10 作品程度 ※教育現場を鑑みて第4回からは小学生部門を新設。 3. CD·DVD 作成と配布およびアーカイブ作成とネット配信(過去のデータ 含)の実現 ※CD、DVD は 300 枚程度を作成し関係者・関係各所(市内の小中学 校等)に配布を予定 4. 童謡音楽祭のチケット販売数及び童謡集等の販売数を増やし、次につ ながる本活動の資金を確保(あくまでも希望であり目標である) ・音楽祭チケット・・・50枚 ・ 童謡集・・・・・・10 冊 ・音源 CD・・・・・ 10 枚 今後の展望 本活動は第 1 回開催から現在まで、全国から(東北から九州まで)の応募は 年々増加している。特に一般部門の作品はレベルが高いものが多く、また第 3回では高校生部門に非常に良い曲が登場した。教育的にも少しずつ私たち の活動が役に立っているのではないだろうか。私たちはそう言ったことも含 め良い歌をこれからも求めていくことで、童謡の広がりと活性化とともに、 市民の文化活動としての意味を継続できることと考えている。 まさに毎回の本活動が、文化庁の「市民から文化力」プロジェクトの一環と して参加している意味はそこにあるのではないかと思う。また本活動は毎回 松戸市教育委員会の後援を受けていることを記しておきたい。 特に今回、DVD 作成やアーカイブのインターネット配信、加えて楽譜の増刷

と期待している。

等はその活動を大いに発展させ、活動の広がりと継続を約束するものである

【収入】

(単位:円)

	科目		金 額	積算内訳
	団体拠出金	¥	59, 218	事業費の一部を団体の会計から拠出
	チケット販売収入	¥	90, 000	単価1800円×50枚
団体	童謡集・CD・DVD販売収入	¥	15, 000	童謡集 単価1000円×10冊、CD・DVD 単価500円×10枚
	自己資金の合計額(A)	¥	164,218	
市	市民活動助成金(B)	¥	271,954	
	合計額 (C) = (A+B)	¥	436, 172	

【支 出】

科目		7	9算額	積算内訳	
	委託料	¥	120, 000	童謡集印刷製本費 800円×150冊	
	委託料	¥	60, 000	CD・DVDメディアプレス費CD・DVD150円×(200枚+200枚)	
	使用料及び貸借料	¥	50, 000	会場費(2区分)午前25,000円、午後25,000円	
助成金	使用料及び貸借料	¥	12, 000	リハーサル用会場使用料3,000円×4回=12,000円	
の交	印刷製本費	¥	10, 000	チラシ 3.5円×2000枚=7,000円 プログラム 15円×200部=3,000円	
付対	消耗品費	¥	33, 000	封筒・プリンター用紙等5,000円、トナー¥7000×4=28,000円	
象経典	通信運搬費	¥	17, 172	切手84円×33通=2,772円、宅急便9人×2回×800円=14,400円	
費					
	対象経費の合計 (D)	¥	302, 172		
	委託料	¥	50, 000	楽譜浄書一冊分30000円、CD・DVDマスター制作費20000円	
そ	予備・雑費(使用料)	¥	28, 000	駐車料金、会議費2000円×10回、応募楽譜等コピー8000円	
の他は	交通費	¥	12, 000	各演奏者等のリハーサルのための交通費	
経費	弁当代・その他	¥		音楽祭当日の演奏者・スタッフ13人分の軽食・飲み物等+交 通費計19,000円、音源等編集ソフト25,000円	
	その他経費の合計 (E)	¥	134, 000		
—— 合計	額(F)=(D+E)	¥	436, 172		

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

《 スタート助成 》

松戸市ご当地漫画&アニメ制作事業

超普通スタジオ

事業名	松戸市ご当地漫画&アニメ制作事業
団体名	超普通スタジオ

事業概要

松戸市を舞台にしたご当地作品「超普通都市マツド伝説」の新作漫画&アニメ3話を制作。松戸の実在する場所を舞台にしたストーリーを展開。松戸のお店・会社・団体・サークル・スポットに募集を行い、3つを選出し、松戸のPRを行う。

IT化の進行などにより、人と人が関わる機会が少なくなっており、人々 取り組もうとす の地域に対する関わりが総じて希薄になっている。 る松戸市のテー マ (課題) 同様に、住んでいる地域への無関心さが、ごみのポイ捨てなど街の景観を 阻害し、地元への愛着が更に弱まっている傾向にある。 ○SUUMO 住みたい街ランキング 2021 関東版 住みたい街ランキング 71位 (前年:53位) ○国勢調査を基にしたサービスである「生活ガイド.com」にて、 「地域交流」「愛着」という面で低水準 松戸市の魅力を伝える漫画・アニメを制作し、インターネットでの配信、 事業の目的 SNSでの情報発信を行い、地元の人や近隣の方々に、わかりやすく目に留 まりやすい方法で、地域の方々が松戸に興味・愛着をもってもらうこと。 制作にプロアマ問わず松戸市民からも募り、共同で一つのモノつくりを行 うことで、地域住民同士の交流を深めること。 1 事業内容 事業内容 ① プレスリリースやSNSを利用し、制作する漫画・アニメの舞台やテー マとなる松戸の魅力・情報を広く募集し、同時に参加者も募る。 【制作関連】チラシ制作、印刷用紙、インク、募集ページ制作費 ② 集まった情報から、より詳細がわかるよう取材を実施(Zoom または直接) ③ PR漫画・アニメを制作する。 【制作関連】声優出演費、楽曲制作費(謝礼)、脚本制作費(謝礼)、ス タジオ使用料、音声収録料、音声収録用音響機材使用料、アニメ用イラ スト・動画制作費 ④ 完成した漫画を HP や SNS で公開、アニメを、YouTube などの動画サイト、 SNS で公開する。

	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など			
	4~6	① スタッフ・情報の募	①構成員			
		集、周知活動	周知対象:地域住民、全国			
	5~6	②取材	②構成員、地域住民			
	7~8	③収録・制作	③構成員、地域住民			
	9~3	④漫画・動画公開	④構成員、地域住民			
			周知対象:地域住民、全国			
既存の事業から		1				
ステップアップ						
する部分						
(ステップアッ						
プ助成のみ)						
事業の目標	A. 連携を希望する方、情報、スタッフの募集【応募数合計:100件】					
	B. 漫画の閲覧数&アニメの閲覧数【3 話合計:30,000 回】					
	B. 漫画の	閲覧数&アニメの閲覧数【3	話合計:30,000 回】			
今後の展望	B. 漫画の 【2022 年』		話合計:30,000 回】			
今後の展望	【2022 年	度】	話合計:30,000 回】 とし、松戸市の様々なテーマに取り#			
今後の展望	【2022 年』 松戸市のE みます。E	度】 団体・企業との連携フェーズ 団体・企業と連携した漫画・	とし、松戸市の様々なテーマに取り線 アニメを追加で3話制作し、松戸市の			
今後の展望	【2022 年』 松戸市のE みます。E	度】 団体・企業との連携フェーズ	とし、松戸市の様々なテーマに取り線 アニメを追加で3話制作し、松戸市の			
今後の展望	【2022 年』 松戸市のE みます。E	度】 団体・企業との連携フェーズ 団体・企業と連携した漫画・	とし、松戸市の様々なテーマに取り約 アニメを追加で3話制作し、松戸市の			
今後の展望	【2022 年』 松戸市のE みます。E 魅力をより	度】 団体・企業との連携フェーズ 団体・企業と連携した漫画・	とし、松戸市の様々なテーマに取り約 アニメを追加で3話制作し、松戸市の			
今後の展望	【2022 年』 松戸市のE みます。E 魅力をより	度】 団体・企業との連携フェーズ 団体・企業と連携した漫画・) 多くの人に知ってもらう下 度・2024 年度】	とし、松戸市の様々なテーマに取り約 アニメを追加で3話制作し、松戸市の地を作ります。			
今後の展望	【2022 年』 松戸市のE みます。E 魅力をより 【2023 年』 一歩進んだ	度】 団体・企業との連携フェーズ 団体・企業と連携した漫画・ ①多くの人に知ってもらう下 度・2024 年度】 ご展開フェーズとして、漫画	とし、松戸市の様々なテーマに取り着 アニメを追加で3話制作し、松戸市の地を作ります。 ・アニメに加え、 声優による オンラ			
今後の展望	【2022 年 松戸市の日 みます。日 魅力をより 【2023 年 一歩 進んだ ン配信によ くの人へ、	度】 団体・企業との連携フェーズ 団体・企業と連携した漫画・ の多くの人に知ってもらう下 度・2024年度】 ご展開フェーズとして、漫画 はる情報番組を開始します。 漫画・アニメだけでは不見	とし、松戸市の様々なテーマに取りま アニメを追加で3話制作し、松戸市の地を作ります。 ・アニメに加え、 声優によるオンラ 2年間で作った下地を活用し、よりま			
今後の展望	【2022 年 松戸市の日 みます。日 魅力をより 【2023 年 一歩 進んだ ン配信によ くの人へ、	度】 団体・企業との連携フェーズ 団体・企業と連携した漫画・ 0 多くの人に知ってもらう下 度・2024 年度】 ご展開フェーズとして、漫画 よる情報番組を開始します。	とし、松戸市の様々なテーマに取りま アニメを追加で3話制作し、松戸市の地を作ります。 ・アニメに加え、 声優によるオンラ 2年間で作った下地を活用し、よりま			
今後の展望	【2022 年』 松戸市のE みます。E 魅力をより 【2023 年』 一歩配信によ くのなテー	度】 団体・企業との連携フェーズ 団体・企業と連携した漫画・ の多くの人に知ってもらう下 度・2024年度】 ご展開フェーズとして、漫画 よる情報番組を開始します。 漫画・アニメだけでは不見 ーマに取り組みます。	とし、松戸市の様々なテーマに取り約 アニメを追加で3話制作し、松戸市の			
今後の展望	【2022 年』 松戸市の日 みます。日 魅力をより 【2023 年』 一歩値によっ くのなテー 【2025 年』	度】 団体・企業との連携フェーズ 団体・企業と連携した漫画・ の多くの人に知ってもらう下 度・2024年度】 ご展開フェーズとして、漫画 はる情報番組を開始します。 漫画・アニメだけでは不足 ーマに取り組みます。	とし、松戸市の様々なテーマに取り着アニメを追加で3話制作し、松戸市の地を作ります。 ・アニメに加え、 声優によるオンラ 2年間で作った下地を活用し、よりをとしていた情報を盛り込んだ松戸市の			
今後の展望	【2022 年 松戸市の国 みます。国 魅力をより 【2023 年 一少配信に く ななテー 【2025 年 全国展開	度】 団体・企業との連携フェーズ 団体・企業と連携した漫画・ の多くの人に知ってもらう下 度・2024年度】 ご展開フェーズとして、漫画 よる情報番組を開始します。 漫画・アニメだけでは不見 一マに取り組みます。 度以降】 フェーズとして、松戸市や松	とし、松戸市の様々なテーマに取りま アニメを追加で3話制作し、松戸市の地を作ります。 ・アニメに加え、声優によるオンライクを 2年間で作った下地を活用し、よりを としていた情報を盛り込んだ松戸市の で			
今後の展望	【2022 年 松戸市の みま力を は 2023 年 一 ン く 様 【2025 年 2025 年 2025 年 2025 年 2026 年 2027 年 2027 年 2027 年 2028 年	度】 団体・企業との連携フェーズ 団体・企業と連携した漫画・ の多くの人に知ってもらう下 度・2024年度】 ご展開フェーズとして、漫画 はる情報番組を開始します。 漫画・アニメだけでは不足 つマに取り組みます。	とし、松戸市の様々なテーマに取り着アニメを追加で3話制作し、松戸市の地を作ります。 ・アニメに加え、 声優によるオンラ 2年間で作った下地を活用し、よりませしていた情報を盛り込んだ松戸市の 戸市の企業と連携し、漫画やアニメの 民に向けた作品・全国に向けた作品を			
今後の展望	【2022 年月 松みます。 財 大 大 大 大 大 大 た く 様 【2023 年月 た く 様 【2025 年月 た く く て く て く て く て く て く て く て く て く て	度】 団体・企業との連携フェーズ 団体・企業と連携した漫画・ の多くの人に知ってもらう下 度・2024年度】 ご展開フェーズとして、漫画 はる情報番組を開始します。 漫画・アニメだけでは不見 一マに取り組みます。 度以降】 フェーズとして、松戸市や松 いき、松戸市の魅力発信・地	とし、松戸市の様々なテーマに取りま アニメを追加で3話制作し、松戸市の地を作ります。 ・アニメに加え、声優によるオンライクを 2年間で作った下地を活用し、よりを としていた情報を盛り込んだ松戸市の で			

【収入】

(単位:円)

	科 目		科目金		金額	積算内訳
	団体拠出金	¥	186, 020	事業費の一部を団体の会計より拠出		
団体						
	自己資金の合計額 (A)	¥	186,020			
市	市民活動助成金(B)	¥	100,000			
	合計額 (C) = (A+B)	¥	286, 020			

【支 出】

544 kgr	科目		予算額	積算内訳		
	報償費	¥	125, 000	声優出演費	5,000円×2人×2回 15,000円×3人	
				楽曲制作費 (謝礼) 脚本制作費 (謝礼)	10,000円×3点 10,000円×3点	
助	消耗品費	¥	6, 000	印刷用紙インク	1,000円×1箱(500枚) 2,500円×2セット	
成金	印刷製本費	¥		チラシ印刷	50.2円×100枚	
の	使用料及び賃借料	¥	60, 000	スタジオ使用料 音声収録料	10,000円×2回 10,000円×2回	
交付対				音声収録用音響機材使用料	10,000円×2回	
象経費	委託料	¥	30, 000	連携募集投票ページ制作費(委託)	30,000円×1回	
	対象経費の合計 (D)	¥	226, 020			
	経費	¥		アニメ用イラスト・動画制作費	20,000円×3点	
その他経費						
	その他経費の合計(E)	¥	60, 000			
合計	額 (F) = (D+E)	¥	286, 020			

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金(B)が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

《 スタート助成 》

カンボジアオンライン講演会事業

特定非営利活動法人 なかよし学園プロジェクト

事業名	カンボジアオンライン講演会事業
団体名	NPO 法人なかよし学園プロジェクト

事業概要

取り組もうとす

カンボジアで地雷撤去を行う NGO 団体 CSHD の代表 Aki・Ra 氏にオンラインで講演をお願いし、カンボジアの現状と日本とは違うコロナ禍を生きる様子を学ばせてもらう。

SDGs が叫ばれる中、「誰一人取り残さない」をグローバルスケールで考え、

る松戸市のテー	市民に世	市民に世界の人たちと繋がり、共に生きていることを学んでもらいたい。						
マ(課題)	自分たち	のコロナ禍と世界のコロナ	禍を比べ、お互いに学び合うことで世界					
	が一丸と	なってこの難局を乗り越えて	ていけるきっかけを作りたい。					
事業の目的	松戸市、村	公戸市教育委員会に後援をい	いただいて実施したカンボジア地雷講演					
	会に続き、	、このコロナ禍でのカンボ	ジアの状況と地雷除去活動のその後を伝					
	え、グロ・	ーバルな規模で SDGs を考え	る機会を与える。					
事業内容	1 事業内	9容						
	1.491							
		コロナ禍における国際協力の在り方を考える カンボジアの地雷除去活動に関する講演会						
	① 現地での活動の様子を動画、写真で提供いただいて学習ビデオを作成する							
	② ② ② ② Aki・Ra 氏と繋ぎリアルタイムの質問を受け付ける							
	③ 事後学習としてリーフレットを作成し、無料でダウンロードできるよう							
	にする							
	④ 講演会周知のためのチラシ作成							
	2 スケジ							
	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など					
	4	① 取材活動	現地状況の確認と素材提供					
	5	② 動画作成	地雷とコロナ禍の対策を紹介					
	5	③ チラシ作成	周知のためのチラシ作成と配布 学習動画の公開					
	6 7	④ 動画 UP⑤ 講演会イベント	オンラインで講演会を実施					
	8 ⑥ リーフレット作成 無料ダウンロードでフォロー							

既存の事業から ステップアップ する部分 (ステップアッ プ助成のみ)	
事業の目標	カンボジアをはじめとする発展途上国の現状に理解を示し、これからの世界で共に生きていく考えを持ってもらう。 【講演会参加者 50 人】 【カンボジア学習動画視聴 500 回】 【リーフレットダウンロード数 100 回】
今後の展望	日本の教科書にも出ている「地雷」についての理解と、日本カンボジア両国の戦争の歴史を振り返ることで、「平和」に向けた取り組みが行われ、世界全体が戦争や地雷のないものになるよう、市民スケールから変えていきたい。また、コロナ後に直接松戸に招く講演会を実施したい。

【収入】

(単位:円)

	科 目	金	額	積算内訳
	団体拠出金	¥	9, 947	事業費の一部を団体の会計より拠出
団体				
	自己資金の合計額 (A)	¥	9,947	
市	市民活動助成金(B)	¥	89,523	
	合計額 (C) = (A+B)	¥	99, 470	

【支 出】

	科 目	予	算額		積算内訳
	報償費	¥	90, 000	NGO団体CSHD Aki・Ra氏	謝礼
	消耗品費	¥	7, 500	コピー用紙:単価668円 インク代:単価6164円	(500枚) ×2 ×1
Rt.	通信運搬費	¥	1, 970	1970円×1ヶ月	(Wi-Fi使用料)
助成金					
助成金の交付対象経費					
付対					
家経					
Ą					
	対象経費の合計 (D)	¥	99, 470		
その					
の他経費					
費					
	その他経費の合計 (E)	¥	0		
合計	額(F)=(D+E)	¥	99, 470		

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 9

《 スタート助成 》

コミュニケーションの知識を学び、対人関係を 円滑にする支援と仲間づくりの場事業

街のコーチング屋さん

g	事業名	コミュニケーションの知識を学び、対人関
		係を円滑にする支援と仲間作りの場 事業
	団体名	街のコーチング屋さん

事業概要

日常の中にある「対人関係の問題」を、原因や対応方法を気軽に学べる場を作り、円滑にコミュニケーションが取れるように支援する。「学び会」とワークを取り入れた「お話会」で、松戸に住む人同士の仲間作りの場を作る。

取り組もうとす る松戸市のテーマ (課題)

現代は、人が抱える悩みの99%が「人間関係」であり、コミュニケーションで解決するといわれている。2021年コミュニケーションに関する悩みについての調査(株式会社TIP&POINT)によると、

- ◎コミュニケーションに悩んだ事がある--78.8% (690 名)
- ◎コミュニケーションを学ぶ場があれば学びたい--53.7% (690名)

78%がコミュニケーションについて悩みを抱えていると答え、職場、友人関係、家庭の順に多く、生活全般で悩んでいる回答が得られた。

例えば、年老いた親との会話が苦痛な方。つい過保護に、子どもと関わってしまう母親。介護などの場面で、思わず口調がきつくなってしまう介護者。関わり方によって、意図せず子どもの可能性を潰してしまっている大人。できて当たり前、できない事を指摘したくなる上司。話を聴いてくれず、勝手に決めつける大人に対して、無力感に囚われる子ども達。

家庭内・学校内・職場・介護等、ありとあらゆる場所で、無意識に取っている行動が、相手との関係性を拗らせている。なぜ、それが起きるのか、何が問題なのか、目の前にいる人との関係性を作っていく方法は、学校の授業では教えてくれない。

こうした普段の暮らしの中でよく目にする対人関係に由来するコミュニケーションの問題。松戸市には、コミュニケーションを気軽に学ぶ場がない。 先の調査にあるように、学ぶ場があれば学びたいというニーズはあるので、 気軽に基礎的な事を学べる場を、松戸市に作り松戸市住民の日常の中に潜む 人間関係の関係性の悪化や心理的暴力等の予防に貢献したい。

コーチングスキルの傾聴・受容・共感によって、安心安全の場を作り出す事、 相手の主体性を促す関わりを作りだす事が、問題解消の糸口になる。

親子・夫婦関係の改善、介護・職場等での接し方の改善、自立の促し方等に役立ちます。

事業の目的

松戸市に暮らす対人関係に悩む人へ、コーチングスキルの知識を知り、コミュニケーションの問題解消できるように支援する。「学び会」だけでなく「お話会」でスキルを体験・実感し、日常にコーチングスキルを意図的に使えるようになる事を目的とする。

また松戸市住民の対人関係やコミュニケーションに興味のある仲間を増 やし、仲間作りの場となる事を目指す。

1 事業内容 事業内容 ① 月に1回のコーチングスキルを学ぶ会を開催 「学ぶ会1回目」: 聴くコツを知って、機嫌よく暮らそう 「学ぶ会2回目」: 人間関係のコツを知って、機嫌よく暮らそう 「学ぶ会3回目」: 訊くコツを知って、機嫌よく暮らそう 日常のコミュニケーション問題を解消する事に役立つコーチングスキルを 厳選して、座学だけでなくワークを多く取り入れて「アハ体験」できる学び 会。3回継続する事で、ベーシックなコーチングスキルの知識を取り入れる 事ができる。コーチングスキル:「聴く」「共感」「承認」「フィードバック」 「質問」等を学ぶ。例)家庭内、職場、介護等で関係性を改善できるスキル ② 月に1回のコーチングスキルを体験するお話会を開催 前半ワーク、後半日常のコミュニケーションを話し合う2部構成のお話会。 ・ワークは、コーチングゲーム等のツールやコミュニケーションの可視化し た4コマ漫画等を使いながら、コミュニケーションの理解を深めるワーク。 ・後半は、コーチングスキルを使いながらのお話会。お互いのコミュニケー ションの問題をテーマに交流と親睦を深める。安心して聴いてもらえる環境 で、受け入れられる事・しっかり聴いてもらえる事を体験し、コミュニケー ションの問題解消を考える時間。松戸市住民の対人関係やコミュニケーショ ンに興味のある仲間を増やし、仲間作りの場となる事を目指す。 ③ ①②の周知のためのチラシを年4回配布 2 スケジュール 実施月 具体的な取り組み 実施体制、対象、場所など 4月/7月 ① 学ぶ会「聴くコツ」聴き方を | 2 名体制/男女問わず大人/ ①隠居屋 ②co-no-mi /10 月/1 変えると関係性が変わる 月 ② お話会 5月/8月 ① 学ぶ会「人間関係のコツ」承 2 名体制/男女問わず大人/ 認・共感・タイプを知ると関│①隠居屋 ②co-no-mi /11 月/2 月 係性が変わる ② お話会 ① 学ぶ会「訊くコツ」質問の使 2名体制/男女問わず大人/ 6月/9月 い方を知ると関係性が変わる ①隠居屋 ②co-no-mi /12 月/3 ② お話会 月 スタートアップのため無し 既存の事業から ステップアップ する部分 (ステップアッ プ助成のみ) ●学び会・お話会の定員が常に埋まるように、活動する。 事業の目標 ① 学び会 参加者定員10名 ②お話会 参加者定員10名 ●「コーチング」を身近に感じられるような情報発信を目指す。 ●大人のための対人関係の問題解消だけでなく、思春期を経て社会を意識し 今後の展望

(セルフコーチングの仕組化)

始める中高生の対人関係の問題解消。●将来の目標・夢実現のための支援。

【収入】

(単位:円)

	科 目	金	額	積算内訳
- 6	団体拠出金	¥	53, 252	事業費の一部を団体の会計より拠出
団体				
	自己資金の合計額 (A)	¥	53,252	
市	市民活動助成金 (B)	¥	100,000	
	合計額 (C) = (A+B)	¥	153, 252	

【支 出】

	科 目	3	予算額	積算内訳
	消耗品費	¥	4, 960	コピー用紙2,520枚 ¥1,990 ※テキスト16枚(1回×10名)×12ヵ月=1,920枚 ※お話会用プリント5枚(1回10名)×12ヵ月=600枚 プリンターインク代¥2,970
	印刷製本費	¥	16, 532	A4チラシ 1枚2.0665円×2,000枚×4回=¥16,532 ※年4回配布予定
助成金の交付	使用料及び賃借料	¥	120, 000	●隠居屋@2,500/1時間 3時間/1回開催 ¥7,500×12回= ¥90,000 ●conomi@1,000/1時間 2.5時間/1回開催 ¥2,500×12回= ¥30,000
內対象経費				
	対象経費の合計 (D)	¥	141, 492	
	通信運搬費	¥	11, 760	ホームページサーバー使用料¥980(使用料/月)×12ヵ月= ¥11,760
その他経費				
	その他経費の合計 (E)	¥	11, 760	
一計	額(F) = (D+E)	¥	153, 252	

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

《 スタート助成 》

介護予防と居場所づくりをつなぐ広報事業

松戸プロジェクト パートナー

事業名	介護予防と居場所づくりをつなぐ広報事業
団体名	松戸プロジェクトパートナー

事業概要

本事業は、「元気応援くらぶ」の取り組みがもたらす介護予防、居場所づくり等に対して、地域課題の解決、また市民活動としての取り組みの観点から実施するものですが、具体的にはニュースレターの発行を通じて広報事業の達成を目指します。

事業の目的	松戸市には一昨年に地域共生課、今年度には地域包括ケア推進課と新たな 組織が相次いで誕生しました。この背景として高齢化社会=介護予防がある
	ことは勿論で、「共生」や「包括」といったキーワードも実は高齢者支援課
	から生まれた概念であり、地域社会の課題として松戸市が抱えているテーマ
	になっています。
	わたしたち広報事業としての取り組みも、こうした地域社会の課題を受け
	て、市民の広報活動として継続性を踏まえ進めていくつもりです。
松戸市の課題	わたしたち、パートナーは介護予防を目的とした「元気応援くらぶ」の活
	動支援をニュースレターの発行を通じて行いますが、元気応援くらぶが持
	つ、地域社会の今日的テーマとしての「居場所づくり」の各種市民活動につ
	いても活動の現状の紹介、活動のつながり等を広報事業の大きな目的として
	います。
	特に、高齢者、障がい者、子ども等と多岐にわたる居場所づくりについて
	は、地域社会が抱える大きな課題でもあり、居場所の確保、つながりに貢献
	できればと考えています。
事業内容	1. 事業内容
事 米门石	現時点で、わたしたちの事業の中心となるニュースレターの中身について
	は下記の方向性で考えています。
1 ×	
10	1. およそ70か所を数える「元気応援くらぶ」活動の紹介、支援。
*	2. 「元気応援くらぶ」の交流促進等を図る。具体的には、「元気応援くらぶ」同士の交流、他団体との交流等の紹介。
	3. コロナ感染を防ぐためのオンライン化促進への支援、勉強会等の紹介。
	4. 一番のメインとしてのニュースレターの発行(年6回程度)
	①リレーインタビュー「主役は元気応援くらぶ」
	「元気応援くらぶ」を順番で紹介し、つながりを図る。
	②連載インタビュー「巡るヒト、つながるヒト」
	主に行政サイドの課長クラスの方を対象に話を伺う。
	③連載インタビュー 「地域を支える人と活動」
	それぞれの分野で市民活動を行っている方々に話を伺う。
	5. 取材等による、小特集
	6. ホームページの制作

	2	スケジ	シュール	
		実施	具体的な取り組	実施体制、対象、場所など
	:	月	み	
		2022	ニュースレター発行	年間、6回を目途に発行予定
		年 4	7	一般市民及び関係団体等を対象に、パー
		月~		トナー・広報チームが制作/発行する。
		2023		インタビュー連載
		年 3	2 T 8 1 15	1. 「巡るヒト、つながるヒト」
		月	=	2. 「主役は、元気応援くらぶ」
				3. 「地域を支える人と活動」
				◆小特集 地域課題等を対象
				◆松戸プロジェクトの活動報告
				◆事業促進のイベント等の紹介
				◆その他
				※インタビュー、特集の取材によって
		× 1		は、相手先、取材先の指定場所に移動
			1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	する。
			ホームページ作成	適時、必要に応じて更新
事業の目標				の成果については千葉大学が調査・研究を
				すると、調査・研究の成果をニュースレタ
				目標になります。また、そのためには市民
	には	句けての	の「元気応援くらぶ」その	りものの理解促進を図ること目標としてレ
	ます	t	Lat Lat	
既存の事業から	無し	(ステ	ップアップではない)	
ステップアップ	1			
する部分				
A (// - 17 HB		\	t	
今後の展望		A. A. A. S.		援くらぶ」、実は地域社会の今日的な課題
				りました。そのように考えてみると、地域
	共生	ESW.	う言葉が浮上し地域社会	が一つの転換期を迎えているのでしょう
	か。			
	-	一方、ケ	↑護予防にしても、居場所	听づくりにしても限定的な地域社会の課是
	でに	はなく普	普遍的な課題として考えら	られます。団体としてのパートナーについ
	ても	ら、継続	売性を踏まえた市民による	る地域活動として捉え、介護予防、居場所
	づく	くりとい	いった課題の解決に向け	て活動の幅を広げていくことが必要かる
	思v	います。		
	7	その音味	未では、地域社会の先導行	殳でもある広報活動の立ち位置を意識し、
				求められると考えています。
	32.55			
				生の 1000 部から 2000 部への増加。また、
				ぶ」中心でなく、関連する他の団体にも増 ************************************
				僧加を考えますと、"既存の居場所"の元
				ます。また、ニュースレターを通じて、他
	分里	野との3	交流を図っていくことが プ	大事な要素になってくると思います。
	1			

【収入】

(単位:円)

	科目		額	積算内訳
	団体拠出金	¥	31, 040	事業費の一部を団体の会計より拠出
		3		
団体	and the second s			
	自己資金の合計額 (A)	¥	31, 040	
市	市民活動助成金 (B)	¥	99, 360	
	合計額 (C) = (A+B)	¥	130, 400	

【支 出】

	科目	予	算額	積算内訳
	印刷製本費	¥	60, 000	ニュースレター 年間6 5円×2000部×6回=60000円
	通信・運搬費	¥		蒸光费用 郵便(完 形
助成				
金の				
交付対				
外象経費				
費				
	7 7			
	対象経費の合計 (D)	¥	110, 400	
	ホームページ制作	¥	20, 000	ホームページ維持費用
その				
他経費				
費				
	その他経費の合計 (E)	¥	20, 000	
合計	額 (F) = (D+E)	¥	130, 400	

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

《 スタート助成 》

菜切り包丁砥ぎ方教室事業

数值調理会

事業名	菜切り包丁砥ぎ方教室事業
団体名	数值調理会

事業概要

高齢男性に適し実益を兼ねた趣味として、簡単な包丁砥ぎ術を広めるために、定員4名の 教室を5回開催する。市内5地域で半日づつ開催し、砥ぎ手を育て、当会加入を勧誘する。

数主20回两座9	る。印刷の地域で中ロック所能し、概ですではて、コムが代を動助する。
取り組もうとす	当会は松戸市のボランティア団体の通弊として、人員構成の女/男比が3対
る松戸市のテー	1~5対1と偏っている。従来の料理教室路線では、コミュ症気味な引篭も
マ (課題)	り高齢男性の腰が上がりにくい。寡黙男性のボランティア活動の種探しの一
	環として、実績を持つ包丁砥ぎを提示したい。「僕が砥ぎ方、あなた使い方」
	と包丁を通して夫婦の話題が増えれば夫婦円満の道も開ける。
事業の目的	高齢男性の実益をかねた趣味として、包丁砥ぎを習得する市民を増やす。
	刃物の砥ぎあがりを楽しむと同時に、切れ味を試すことから料理に取り掛か
	る可能性もあり、当会の男性会員増に繋げる。
事業内容	1 事業内容
	対象を菜切り包丁に限定することで半日習得が可能になる。
	さらに、当会独自考案の安全砥ぎ台を提供し、安全で資本投下を不要とし、
	年金生活者の参入を容易にする。
	A)独自木製の安全砥ぎ台を製作し、受講生に配布し、紙やすりによる乾式砥
	ぎ方を半日で伝授する。
	B) 幸い活動拠点マッチング事業がおこなわれており、市内 5 地域の会場を求
	めて、広く地域分散し、参加者4名の教室を5回開く。利用する際、案内と
	宣伝をかねて入り口に「砥ぎ方教室」と標した幟を立てる。
	C) 市内では見慣れない教室であり、受講者募集は困難が予想されるので、
	教室周辺 1km以内各戸に宣伝チラシのポスティングを会員が行うととも
	に、調理関係者として市内こども食堂や介護施設などに延べ120通の宣伝チ
	ラシを郵送する。
	D) 祭りの時期には、砥ぎ方教室宣伝の目的でデモンストレーションを
	行う。商工会議所経由で松戸祭りおよび、サポセン祭りに出展する。

	2 スケジ	<u> </u>					
	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など				
	4月	安全砥ぎ台の製作	木工所に製作委託する。				
	5月	①三矢小台地区教室開催	椿の庭邸				
	6月	休会	梅雨のため				
	7月	②本庁地区教室開催	小山・明・和名ヶ谷付近で検討中				
	8月	休会	暑気の為				
	9月	③矢切地区教室開催	椿の庭邸 (予定)				
	10 月	④五香地区教室開催					
	11 月	休会	ゆうまつど FESTA に注力の為				
	12 月	⑤小金地区教室開催					
	1月	反省会					
	2月	決算					
既存の事業から ステップアップ する部分							
(ステップアッ							
プ助成のみ)							
事業の目標	A) 砥ぎ手の養成数 20 名						
	B) 教室での砥ぎ本数 延べ 2丁/人*20=40丁/年						
		松戸市 24 万世帯余には 未整備の菜切り包丁が多数あるはずであり、近い 将来に一般市民の需要に応えられるよう門戸を広げたい。					

【収入】

(単位:円)

	科 目	金	額	積算内訳
	団体拠出金	¥	810	事業費の一部を団体の会計より拠出
	教室参加費	¥	6, 000	単価300*20人
団体				
	自己資金の合計額 (A)	¥	6,810	
市	市民活動助成金(B)	¥	61,290	
	合計額 (C) = (A+B)	¥	68, 100	

【支 出】

	科 目	予算額	湏	積算内訳		
	委託料	¥	22, 300	安全とぎ台:単価990円*20台	宣伝幟製作委託	単価2500円*1本
	印刷製本費	¥	9, 600	チラシ: 単価2800円*2回	説明資料:単価20	0円*20人分
	使用料および賃借料	¥	21, 000	会場費:単価3000円*5会場	祭り出店:単価3	000円*2回
助成金の	消耗品費	¥	4, 400	紙やすり:単価110円*2袋*延べ 20人		
交付対象経費	通信運搬費	¥	10, 800	切手代:単価84円*120通		
象経費						
	対象経費の合計 (D)	¥	68, 100			
そ						
の他経費						
	その他経費の合計(E)	¥	0			
計	額 (F) = (D+E)	¥	68, 100			

- 1 助成金(B)が対象となる経費(D)欄の90%以内、自己資金(A)欄が対象経費(D)欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

《 スタート助成 》

四世代のきずなで、 豊かな生活環境を実現する事業

小金原みんなでわくわくする会

事業名	四世代のきずなで、豊かな生活環境を実現する事業
団体名	小金原みんなでわくわくする会

事業概要

老人から孫まで、四世代がより健康で安全・豊かな生活ができる居住環境を実現するため、小金原地区における地域活動を SDGsの視点から再構成し、全世代参画のもと、助け合える魅力あるまちづくりを実現する。

取り組もうとする 松戸市のテーマ (課題)

小金原地区は、松戸市でも高齢化が進んでいる地域と言われておりますが、 その現状把握は十分でなく、また、若い世代へ街の魅力を十分に伝えられて いないため、このままでは、「町内会活動は年寄りがやるもの」というとらえ方 で、コロナ禍の中、ますます町内活動が停滞してしまう。

事業の目的

四世代が、健康で安全・豊かな生活ができる災害に強い居住環境を実現するため、従来からの地域活動を SDGs 活動の一環として整理・進化させ、相互の協力体制による「ありがとう!」のまちづくりを目指す。

事業内容

1 事業内容

【SDGs の 2 項目に整理し、次世代の担い手を増やす地域住民活動】 SDG 3; あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活と福祉の確保・推進 SDG11: 安全で災害に強く、持続可能な都市及び居住環境の実現

- 1) SDGs の理解と現活動の整理・進化
 - ① 外部講師を招いて「SDG's×地域活動」をテーマとした勉強会を実施。
 - ② SDGs3,11 項に関係した地域活動を見直すワークショップの実施 例(1)ごみの管理と清掃活動(町会)
 - (2)高齢者支援活動(老人会)
 - (3)児童支援活動(民生委員)
 - (4)地域防災・防犯(防災リーダー・防犯委員)
- 2) 町内会の SWOT(強み弱み)分析作成による活動マトリックス
 - ① SWOT 分析の勉強会
 - ② 全世代を入れて、現活動の良い点、悪い点を書き出す。
 - ③ 各項目の改善、対策案を具体化列記する。
 - ④ 具体項目を SDGs 項目に分類、整理する。
 - ⑤ 即対応可能なこと、予算が必要なものを仕分けする。
 - ⑥ 案件毎のリーダーを決める。
 - ⑦ 具体的活動の実施。

【対象】 小金原地区の 3 丁目を中心とした周辺住民 特に町会に参加していないが地域活動に関心のある次世代

	2 スケジコ	∟ −ル						
× 1	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など					
	2022/4	·第1回 SDGs 勉強会	実施体制;運営委員、外部講師					
		講師招いて勉強会実施	(SDGs プラットフォーム水畑先生					
		・チラシ作成・配布	他)、 地域住民有志					
			対象;地域住民					
			場所;小金原市民センター					
	2022/5	SWOT 分析実施	実施体制;(同上)、対象;(同上)					
		第2回 SDGs 勉強会	場所;(同上)又は町内会館					
		講師招いて勉強会実施						
	2022/6	SDGs 該当項目の具体的	実施体制;(同上)、対象;(同上)					
		案件抽出	場所;(同上)					
	2022/	SWOT 分析の SDGs 項目	実施体制;(同上)、対象;(同上)					
	7,8	落とし込み整理	場所;(同上)					
	2022/9	活動キック・オフ	実施体制;(同上)、対象;(同上)					
		各案件のリーダー選任	場所;小金原市民センター					
	2022/	活動実施	実施体制;(同上)、対象;(同上)					
	9~12		場所:(同上)または市民センター					
	2023/	・活動報告と見直し	実施体制;(同上)、対象;(同上)					
	1~3	とりまとめ	場所;(同上)または市民センター					
		・チラシ作成・配布						
既存の事業から	スタートア	ップ助成のため該当なし						
ステップアップす								
る部分								
(ステップアップ								
助成のみ)	~							
事業の目標	1 SDGs	活動の概論理解:全構成員(10 名), 地域住民(50 名)					
争未の日保			付け:全構成員、掲示板及び回覧板に					
	掲載		The second secon					
		分析の方法と活用の理解:	全構成員(10名)、地域住民(50名)					
,		分析表の完成;掲示板及び						
)参画;15~80 歳までの活動メンバー					
	6. 具体的	対活動の実施;実施状況進拗	の掲示板及び回覧板に掲載、活動計					
	画の8	0%達成						
今後の展望	1. 上記活	動を定着させ、次年度ステ	ップアップ助成が申請できるように具体					
プタの成主		善を推進し、推進ロードマッ						
		2. 若手世代の居住率向上と非居住住宅の実態把握を図る。						

【収入】

(単位:円)

	科目		科 目 金 額		金額	積算内訳	
	団体拠出金	¥	60, 000	事業費の一部を団体会計より拠出			
団体							
	自己資金の合計額 (A)	¥	60,000				
市	市民活動助成金(B)	¥	100,000				
	合計額 (C) = (A+B)	¥	160, 000				

【支 出】

	科目	子	算額		積算内訳
	報償費	¥		SDGs外部講師謝礼	40,000円x2回
	消耗品費	¥	6, 400	SDGs、SWOT 勉強会資料	用紙;1.1円 x 5P x 100セット x 2種 インク;2650円 x 2
助		¥	4, 840	ブレインストーミング (SWOT分析で抽出した案 件⇒SDGs活動テーマ)	模造紙;110円 (4枚) x 10枚 マジック;110円 x 12本x2色 用紙:1.1円 x 1000枚
成金のな	印刷製本費	¥	20, 000	・活動説明 ・活動成果 チラシ印刷	5円 x 2000枚x2回
交付対象経	使用料及び賃借料	¥	20, 760	会場費	市民センター; 930円 x 3時間 x 2回 三丁目会館; 400円 x 3時間 x 8回 市民センター; 930円 x 3時間 x 2回
費	,				
	対象経費の合計 (D)	¥	132, 000		
そ	食糧費	¥	28, 000	勉強会・会合のお茶代	100円 x 50人x4回 100円 x 10人x8回
の他経費			, k (a)		
賃	その他経費の合計 (E)	¥	28, 000		
—— 合計	額(F)=(D+E)	¥	160, 000		

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

《 スタート助成 》

梨香台団地付近の多世代交流型居場所事業

梨っこ食堂

事業名	梨香台団地付近の多世代交流型居場所事業
団体名	梨っこ食堂

事業概要

梨香台団地は、平均年齢78歳と高齢化が顕著であるが、若い世帯も増加しつつある。コロナ禍の影響もあり、子育てが孤育てとなっている。また、高齢者の孤独死も9人/年と住人同士のつながりが希薄となり、子どもや大人の居場所が不足している。地域の多世代が支え合い共に暮らす地域を目指し、だれもが参加できる居場所・実家的な役割の構築を図る。

取り組もうとす	梨香台団地付近(高塚新田)は、子ども・高齢者の居場所が不足している現					
る松戸市のテー	状がある。また、コロナ禍の影響は大きく、学校行事や地域のイベントも中					
マ (課題)	止になり、家庭環境は大きく変化し、貧困や孤立が社会問題となっている現					
	状は、高塚新田地域でも顕著である。子どもは家庭と違う大人と繋がり、選					
	択肢を増やし、心身の健全な成長を図る。高齢者は、子ども食堂に参加する					
	ことで、社会活動に参加、フレイル状態や認知機能低下を軽減させようとす					
	るものである。					
事業の目的	誰でもが参加できる居場所・人との繋がりづくりに子ども食堂の開催。					
4.V. 11.	子育てが孤育てにならないように、親も子も息抜きの場とする。					
	困りごとの相談の出来る専門家との語りの場提供					
	いつでもお腹いっぱい食べられる環境づくり					
	お弁当の配布やフードパントリー・衛生用品の配布を実施					
	お弁当・食材の個別支援(必要であれば、お宅で予約調理も可能)					
	子ども学習支援(学校に行きたくない子どもの居場所としても活用)					
	将来の居場所・拠点づくりを目指し、自立・収入を得られるワークショップ					
	や野菜作りで食育含む					
事業内容	1 事業内容					
77171	① 定期的な梨っこ食堂を開催 (3回/月予定)					
	会場: 梨香台団地集会所(抽選に外れた場合は東部市民センター)					
	・子ども・大人が横並びの関係で食事をつくり、お腹いっぱい食する。					
	・子ども食堂での学童や学校に行けない子どもの安心できる居場所となる					
	繋がりづくり					
	② 子ども食堂開催時 お弁当・フードパントリー・衛生用品配布を実施					
	③ 緊急要請の場合、要相談で食材個別配布支援実施					
	④ 外出できない世帯を対象として、必要に応じて自宅へ出向き調理					
	⑤ 子育てが孤育てにならないように、困りごとなどの相談ができるよう、					
	予約制で専門家相談会実施(梨っこメンバーに専門家もおります)					
	⑥ 子ども食堂開催時 通年で都度学習支援・宿題支援を実施					
	・長期休暇の場合は、1回/週					
	⑦ 定期的なイベントやワークショップを実施、(子ども・大人)					
	(今後起業を目指すママさんのワークショップなどで経験値を増やす。					
	将来の事業化などを目指す人の応援実施)					
	⑧ 長期休暇時のイベント・ワークショップ(夏、冬ともに外部講師依頼)					
- Insert						

・7.8月夏休み自由研究・夏休みやりたい事イベント開催 ・12.1月 冬休み クリスマス・正月イベント ⑨ チラシ・パンフレットを作成し、参加者を増やす 2 スケジュール (番号①~⑨は事業内容参照) 実施月 具体的な取り組み 実施体制、対象、場所など $\bigcirc \sim \bigcirc$ ボランティア、地域住民、団地内 4.5 6.7 $(1) \sim (8)$ ボランティア&外部講師、地域住 民、団地内 (1) \sim (8) ボランティア&外部講師、地域住 民、団地内 $(1)\sim(7)$ ボランティア、地域住民、団地内 9.10 $(1) \sim (7)$ ボランティア、地域住民、団地内 11 ボランティア&外部講師、地域住 1~8 12 民、団地内 $(1) \sim (8)$ ボランティア&外部講師、地域住 民、団地内 $(1)\sim(7)$ ボランティア、地域住民、団地内 2.3 ※⑨については随時実施 既存の事業から ステップアップなし する部分 (以下番号は事業内容参照) 事業の目標 ① 誰でもが参加できる居場所・人との繋がりづくりに子ども食堂の開催。 ・月2回~3回開催し、参加人数:1回あたり子ども30人・大人20人 ・いつでもお腹いっぱい食べられる環境づくり ② お弁当の配布やフードパントリー・衛生用品の配布を実施 ·月2回開催/年間24回開催 ③ お弁当・食材の個別配布支援 ・月1~2回(緊急支援など 実績あり) ⑤ 子育てが孤育てにならないように、親も子も息抜き場とする。 ・地域の子育て世代 新規親子参加 1組~2組/月 ・困りごとの相談の出来る専門家との語りの場提供 ・資格保有者による育児・介護相談など 1回/月 ⑥ 通年 都度学習支援開催 ・長期休暇時毎週1回学習支援実施 7月~8月(8回実績あり) ★将来、居場所・拠点を商店街の店舗又は、近隣の古民家を賃借し、安定的 今後の展望 に確保、だれもが立ち寄れる実家的な雰囲気の居場所を毎日開催する。子育 てママさんの休憩所、時にはスタッフがお子様と遊び、ママさんはお昼寝な ども可能な安心できる居場所とし、子育て支援の場とする。 ★経験豊かな高齢者の役割を再構築し、地域で子どもや高齢者をお互いに見 守り、不足を補い合える繋がりを創る。 ★子ども学習支援(学校に行きたくない子どもの居場所としても活用) ★防災、認知機能低下、フレイル予防の拠点となる。

【収入】

(単位:円)

	科目		金 額	積算内訳
	寄付金	¥	300, 870	協力団体様
	講座参加料	¥	16, 800	300円×56人分
団体				
	自己資金の合計額 (A)	¥	317,670	
市	市民活動助成金 (B)	¥	100,000	
	合計額 (C) = (A+B)	¥	417, 670	

【支 出】

	科目	7	算額	積算内訳		
	報償費	¥	10, 000	外部講師謝礼	5,000円×2回	
	消耗品費	¥	328, 210	弁当箱	50円×68枚 5, 400円×1 8, 400円×3回/月×12か月 9. 45円×1800個	
助	印刷製本費	¥	40, 000	チラシ印刷 パンフレット印刷	5円×4,000枚 50円×400部	
成金の	使用料及び賃借料	¥	1, 340	会場使用料	1340円×1回 (梨香台団地集会所が抽選で外れた場 合の予備 東部市民センター)	
交付対	通信運搬費	¥	840	切手 (支援企業様宛)	84円×10	
象経典	保険料	¥	1, 280	行事保険料	子ども食堂保険25.6円×50人	
費						
	対象経費の合計 (D)	¥	381, 670			
	交通費	¥		3,000円×12回分		
そ						
の他経費						
	その他経費の合計(E)	¥	36, 000			
合計	額 (F) = (D+E)	¥	417, 670			

- 1 助成金(B)が対象となる経費(D)欄の90%以内、自己資金(A)欄が対象経費(D)欄の10%以上であること。
- 2 助成金(B)が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円 以内であること。

《 スタート助成 》

市民参加型の「まつどオペラ」の充実化事業

混声合唱団 CORO KOKO

事業名	市民参加型の「まつどオペラ」の充実化事業
団体名	混声合唱団 CORO KOKO

事業概要

2020年に「芸術の地産地消」をコンセプトに、「まつどオペラ」を旗揚げし、市民参加によるオペラの活動を開始したが、その内容を充実しさらに発展させる。

	1						
取り組もうとする松戸市のテーマ (課題)	市民参加によるオペラは、全国的には藤沢市の市民オペラを皮切りに、県内では千葉・市川・船橋で市民オペラが実施されているが、松戸市では、「まつどオペラ」として旗揚げされたものの、他の市のような本格的な市民参加型のオペラ実施に達してない。HPで森のホールの公演実績を見ても、プロのオペラ公演さえ行われた例も見つからない。						
事業の目的	市民参加による「まつどオペラ」公演内容を充実し、市民にオペラを身近に 感じていただく機会を設ける。 ① このため、オペラのアリアのみ等のガラコンサートでなく、プロのソリ ストを入れたオペラ全編公演を目指す。 ② オペラの合唱団は、当合唱団を核とし、小中高生・学生及び一般市民も 加えた文字通り「市民参加型のまつどオペラ」と言えるようにする。						
事業内容	1 事業内容 市民参加型のオペラ全編公演実施には、2年程度の練習時間が必要なた め、公演本番は令和5年度とし、令和4年度はその準備と練習のための 期間とし、次の内容とする。 ①市民参加型のオペラの演目の決定(選定等は前年度後半から準備)。 ②広報チラシの作成と市民参加の募集。 ③年内はパート別練習の強化とパート合同練習の併用。 (練習は、新型コロナの感染対策に配慮、以下同じ。) ④年明けの練習にはソリストも入れた合唱練習。 (参考までに令和5年4月以降は、振り付けを入れた合唱練習、 ソリストも入れた通しの練習等を充実させ、本番の公演を開催。)						
	2 スケジ:	I					
		具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など				
	4~5月	①オペラの演目の決定	①練習指導講師と合唱団役員				
		②練習日程、指導体制	②検討会はサロンkoko				
		③ソリストの選定と決定	③ソリストは市内在住者優先				
		④広報資料の作成	④市民参加のオペラ公演の PR と 参加者募集				
		⑤市の広報への依頼	⑤市民センター等に依頼				
		⑥パート別練習開始	⑥サロンkoko				

	6月~ 9月	①市民参加者受付 (応募数に応じ募集期間 後も随時に受付) ②パート別練習	①応募者面談(適宜応募の都度) ②パート別練習はサロンkoko (新人には合唱団員がリード)				
	10月~	①パート別練習(月2回) ③パート合同練習 (月1回)	②合同練習は市民センター				
	2月~3月	①パート別練習(月2回)②ソリスト及びピアニストを入れた合同練習開始(月1回)	②合同練習は市民センター				
	3月	①公演当日のチラシ案作成	①観客募集用(新型コロナの状況に配慮)				
事業の目標	(令和4年度の事業) ①参加者がオペラの合唱部分全編を通して歌えるようになる。 ②専任講師以外のソリスト4人及びピアニスト1名の決定と、ソリスト等を入れた練習の実施。 ③小中高生及び一般参加者数は10名以上(できれば20名程度まで)。 ④上記③と当合唱団による「まつどオペラ合唱団」合計は、40名~50名程度。						
今後の展望	①令和5年度当初は、合唱のさらなるレベルアップを図り、振り付けを入れた練習を実施。 ②本番公演は年度後半に森のホール又はこれに準ずるホールで実施。 ③その後も新たなオペラにチャレンジし、松戸市に市民オペラがあることを広く知られるように「ホームページ」の作成等PRを強化。 ④これらを通して、市民のオペラへの関心を高めると共に、松戸市の音楽文化のさらなる向上につなげる。						

【収入】

(単位:円)

	科 目		金 額	積算内訳
	団体拠出金	¥	33,356	事業費の一部を団体の会計より拠出
	d ·			
団体				
"				
	自己資金の合計額 (A)	¥	33,356	
市	市民活動助成金(B)	¥	100,000	
	合計額(C)=(A+B)	¥	133,356	

【支 出】

	科目	予算額	積算内訳
	報償費	¥ 100,00	00 外部ソリスト・ピアニストとの合同練習参加謝礼10,000円×5人×2回
	印刷製本費	¥ 10,00	00 チラシ印刷費 5円×2,000部
	委託料	¥ 10,00	00 市民参加型オペラ公演PR(含む:参加者募集)チラシ作成費
助成金	使用料及び賃借料	¥ 13,35	56 会場使用料651円×3時間×6回、ピアノレンタル料91円×3時間×6回
の			
交付対			
対象経費			
貫			
	対象経費の合計(D)	¥ 133,35	66
そ			
の他経費			
費			
	その他経費の合計(E)	¥	0
合計	額(F)=(D+E)	¥ 133,35	6

- 1 助成金(B)が対象となる経費(D)欄の90%以内、自己資金(A)欄が対象経費(D)欄の10%以上であること。
- 2 助成金(B)が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円 以内であること。

《 スタート助成 》

ぶどうの家 ふれあいコンサート・イベント事業

> 特定非営利活動法人 葡萄の家

	事業名 ぶどうの家 ふれあいコンサート・イベン ト事業
	団体名 特定非営利活動法人 葡萄の家
事業概要	
障がいのあるなし	に関係なく、参加できるイベント・コンサートを実施する。
同じイベント内で	、同じ場所・同じ時間を過ごすことによって、障がいも一つの個性だと理解し
てもらう。	
取り組もうとす	多様性と必要とされる声が高まりつつある社会で、障がい者と一緒に参加で
る松戸市のテー	きるイベントが少ない。松戸市の公共施設を活用していきたい。
マ (課題)	
事業の目的	障がいのあるなしに関係なく、同じイベントでの同じ場所・同じ時間を過ご
198	すことによって、障がいも一つの個性だと理解してもらいたい。
	私たちのイベントは、出演者や講師の方々に、予め障がいを持った方が参加
	しますと伝えてあります。もし、途中で退席する人や大きな声をあげる人が
	いる事にも理解をしてもらっています。
	1 事業内容
事業内容	① おもしろ実習教室 (講師:関矢さん、田中さん他)
	会場:市民会館 201・202会議室
	参加者:100名(3回講演の合計)
	公益社団法人 日本技術士会のエンジニアの方々(4~6名)が
	障がいのあるなしに関わらず、子供から高齢者まで楽しめる科学工作を
	優しく丁寧に指導してくれます。
	② ふれあいコンサート (出演者:ジョーバン・バロック・アンサンブル)
	会場:森のホール21 レセプションホール
	参加者:100名
	演奏者は、常磐線沿線出身あるいは在住で、各方面で活躍中の実力派
	メンバーによって結成されたアンサンブル。ピリオド楽器(作曲家が
	生きていた時代に使われた楽器)を用い、バロック音楽をレパートリー
1 1	の中心としています。
7	「アートラインかしわ 2011/2013/2014/2015/2016/2017」の連携事業に 参加するなど、柏・松戸地域で演奏活動を展開しています。
	シ/ハル プ&と、1μ 1Δ/ 元次(1央矢1μ野/2 /区/m してv より。
	これまで行っていたチャリティーコンサートとは違って、新たに「ふれ
c	あい」をテーマにします。どなたでも気軽に参加できるものとする。
-	演奏者からの楽器の紹介や、説明があります。
	演奏会の後には間近で楽器も見せてもらえる。
	障がい者・小学生以下・高齢者の方を 30 名をめどに無料招待にする。

どちらのイベントも、参加者と演奏者・講演者が同じ目線になるように、 フラットな会場を選んで使用しています。 イベントの案内は、地域新聞をはじめとする地域の情報雑誌に無料で 掲載する。 その他、松戸市・柏市・流山市・市川市の広報に掲載をお願いする。 アンケート用紙を配り、案内を希望する方には、次回のイベントのお知 らせをします。10年来のファンの方もいらっしゃいます。 障がいのある方にも参加してもらえるように、チラシ等の案内を特別 支援学校や手をつなぐ育成会等にも送る。 2 スケジュール 実施体制、対象、場所など 実施月 具体的な取り組み 8月 ① おもしろ実習教室 ①構成員、地域住民、市民会館 開催 会場は、半年前に 予約する。 ② ふれあいコンサート ②構成員、地域住民、森のホール 10月 開催 会場は、1年前に 予約する。 既存の事業から ステップアップ する部分 (ステップアッ プ助成のみ) ①1回の講座で50人を集める。1日3回の講座をひらく。 事業の目標 ②1回の公演で、50人以上の来場者を目指す。 今後の展望 継続的にイベントを実施する事により、「障がい」への理解を深めてもらう。

【収入】

(単位:円)

科 目 金 額		積算内訳		
i.	団体拠出金	¥	9, 544	事業費の一部を団体の会計より拠出
	寄付金	¥	5, 000	友人・知人より寄付
団体	コンサート収入	¥	70, 000	チケット代 1,000円×70人
	自己資金の合計額(A)	¥	84,544	
市	市民活動助成金 (B)	¥	100,000	
	合計額 (C) = (A+B)	¥	184, 544	

【支 出】

	科目	Ť	算額		積算内訳
	報償費	¥	65, 000	講演者謝礼 演奏者謝礼	10,000円×2人 15,000円×3人
	消耗品費	¥	5, 000	おもしろ実習教室チラシ 作成の 印刷用紙・インク	印刷用紙350円×2 インク5色パック4,300円
	印刷製本費	¥	1,000	おもしろ実習教室 チラシ印刷	5円×200枚
助成金	委託料	¥	14, 000	ふれあいコンサート チラシ・プログラムのデザ インと製作、印刷を含む	ポスター400円 ×10枚 チラシ15円× 300枚 ポスター400円 チケット20円×100枚 プログラム35円×100 部
対象	使用料及び賃借料	¥	82, 004	実習教室会場 コンサート会場	4,080円×1回 市民会館201・202会議 室 77,924円×1回 森のホール レセプ ションホール・小会議室
経費	通信運搬費	¥	5, 040	案内状	84円×60箇所
	対象経費の合計 (D)	¥	172, 044		
	食糧費	¥	5, 000	会員の昼食代	500円×5人×2回
そ	交通費	¥	5, 000	会員の交通費	500円×5人×2回
の他経費	保険料	¥	2, 500	ボランティア活動保険	500円×5人
	その他経費の合計(E)	¥	12, 500		
合計	額 (F) = (D+E)	¥	184, 544		

- 1 助成金(B)が対象となる経費(D)欄の90%以内、自己資金(A)欄が対象経費(D)欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

《 スタート助成 》

金ケ作歴史散策まっぷプロジェクト事業

金ケ作歴史同好会

事業名	金ヶ作歴史散策まっぷプロジェクト事業
団体名	金ヶ作歴史同好会

事業概要

すでに観光などの地域マップが存在する。しかし歴史事実に基づくマップが存在しないことに 憂慮していた。そこで松戸市の助成事業を利用しながら、地域の強みを生かした本件を実施した い。これをテコに門前、佐野、河越と五助の金ヶ作地区の連携を図りながら、地域おこしを企て るものである。

取り組もうとす る松戸市のテーマ(課題)

- 1. 歴史は懐古趣味ではない。歴史観は人さまざまで取り扱うのが難しいが、 歴史事実は共有できるはずである。過去の歴史を学ぶことによって、現在 を知り、未来への選択肢の幅が拡がるのである。その点で歴史散策まっぷ はやり易い。<歴史の取り扱い>
- 2. 明治22年(1889)に七ヶ村を合併させて高木村ができたが、享保15年(1730) の新田開発で金ヶ作村ができていた。大東亜戦争後、松戸市は東京のベットタウンとして都市開発が進み、金ヶ作の大部分が常盤平団地として生まれかわり、金ヶ作の駅名もかわった。今回、いっしょに連携しようと考えているのは、金ヶ作として残された門前、佐野、金ヶ作町会の有志である。<経緯>
- 3. 金ヶ作は、主に新京成八柱駅、常盤平駅、五香駅までの区間北側に位置して大部分が市街化調整区域である。そのためともいえるが、21世紀の森と広場ともつながって、囲い山の森・金ヶ作自然公園・立切の森・三吉の森から大津川方面(藤心)に続く自然は貴重である。位置的に松戸市の中央部にあり標高が少し高く、雨水は、大津川(手賀沼水系)、坂川(江戸川)、春木川(国分川)の三方向に分かれる珍しい分水嶺(界)がある。湧水も多かった。しかし、生産緑地法の指定期間30年が経って景色が変わろうとしている。<立地>
- 4. 道路の拡幅や宅地造成とともに、あったはずの庚申道標や旧陸軍鉄道第二連隊演習線の境界標石が車止めになっていたりする。この「金ヶ作歴史散策まっぷ」を介して、小金牧や金ヶ作陣屋、徳川将軍御鹿狩り、鮮魚街道など金ヶ作の歴史事実を残す端緒としたい。森のホール21や松戸市立博物館、千葉県立西部図書館などの文化・学術施設を含め、森と文化と歴史をテーマに松戸市の魅力をさらに高められるマップにしたいと考えている。<課題>

事業の目的

次年度も新型コロナウィルスとの戦いは続くと思われるので、リスクが高いイベントは避け、成果物としての「金ヶ作歴史散策まっぷ」制作を軸に地域の関係団体との連携を発展させる。なお、印象が固くならないよう健康的で楽しんで歩けるマップにしたい。

すでに地域の歴史を紐解ける出版物を出した市民活動団体もある。金ヶ作においてそれに相当するものは、松戸市立高木小学校の90年史や「高木のむかし」高木のむかし編集委員会(平成3年3月31日発行)、同100年史がある。それらは高木小学校の記念事業として発行されたもの。今回目指すのは、地域

*	の歴史を可視化して一見性と可読性を補うマップである。そこには最近になっ
	て見えてきた歴史事実も含めたいと考えている。また、この取り組みは、地域
	を愛する諸先輩が残したご努力を引き継ぐ手段のひとつになればと願って申
	請するものである。
事業内容	(1) 地図制作
	仕様: A2、両面カラー
	表面:歴史散策まっぷ(3コース程度)、裏面:文化財・史跡マップ(写真、
	解説)、工期:5ヶ月、内容:デザイン企画、撮影、印刷
	サイズ:表面・横 420mm 縦 594mm、裏面・横 594mm 縦 420mm
	第1版は日本語バージョンのみとする。
	テーマ:「森と文化と歴史」・・協力者との地図づくり
	小金牧(中野牧)としての金ヶ作陣屋、鮮魚街道、お立場(旧松戸飛行場含
	む)、陸軍鉄道演習線軌道跡などの学術的・歴史事実にもとづく俯瞰まっぷ。
	地図範囲:21 世紀の森と広場を含む金ヶ作地区(門前・佐野・金ヶ作(河
	越・五助))と関連場所。
	印刷:一枚200円単価で500枚を目指す予算案
	(2) 地図デザイン (レイアウトやイラストを含む) の検討作業
	(3) 歴史的事実の再検討・洗い出し作業
	(4) 自然と地形および学術文化資源の検討作業
	(5) 写真や解説文の検討作業
	(6) 地図制作の過程を通して、門前町会、佐野町会、金ヶ作町会その他関係団
	体等との連携を模索しながら、継続的に次のステップに進むようにしたい。
	スケジュール管理
	・検討会の実施 定例と臨時を適宜実施
	・場所 門前町会集会所、コミカフェ ChoshiYa
	・構成員 本会員のほか協力者や有志を拡大
	第1四半期 4~6月 検討作業期間
	第2四半期 7~9月 制作重点期間
	第3四半期 10月~12月 検証期間、試し刷り。
	第4四半期 1月~3月 歴史散策の試行。協力者に参加してもらい意見
	を反映。再検証、印刷、配布先の検討と配布。
事業の目標	成果物としての「金ヶ作歴史散策まっぷ」の制作と地域連携の構築。とくに地
	域連携は、マップをつくった後の発展につながるので重要である。
今後の展望	すでに話題にあがっている項目としては、以下のようなものがある。
	・歴史散策ガイドの実施
	・講演会「故郷を語ろう(門前町集会所)」などの実施
	・Google Map 上に歴史散策まっぷを共有(公開)させる。
	・地域の歴史の語り部をしたい(初中等教育への協力活動)。
	・市立博物館に立体俯瞰図を置きたい。
	・御陣屋太鼓を松戸市指定有形文化財として申請をしたい。
	・歴史を示すために町会等と提携して独自の案内・説明を設置したい。
	・第1版での指摘も踏まえて、更に充実の第2版の制作を行うなど。

【収 入】

(単位:円)

	科 目		金 額		積算内訳
	団体拠出金	¥	11	3, 776	事業費の一部は団体の会計より拠出
団体		******	************		

	自己資金の合計額 (A)	¥	1	13,776	
市	市民活動助成金(B)	¥	10	00,000	
	合計額 (C) = (A+B)	¥	21	3, 776	

【支 出】

	科目		算額	積算内訳		
	消耗品費	¥	10, 000	プリンタインク3,210円、台紙1,070円、A4普通紙660円、白地図(電子 国土基本図より調達予定)ほか 5,060円		
	使用料及び賃借料	¥	28, 776	地図制作用ソフト Adobe Illustrator 1ライセンスプラン 28,776円/年。その他編集環境は既存のソフトと設備を利用する。		
助成	委託料	¥	30, 000	金ヶ作歴史散策まっぷのイラスト作画		
金の	使用料及び賃借料	¥	30, 000	会議室使用料 @500×2h×30日=30,000円		
交付対	印刷製本費	¥	100, 000	金ヶ作歴史散策まっぷ(第1版)@200×500枚		
対象経	,					
費		***************************************				

	対象経費の合計 (D)	¥	198, 776			
	お茶代	¥	15, 000	飲料@100×30日×5人		
そ						
の他経						
費						
	その他経費の合計(E)	¥	15, 000			
合計	額 (F) = (D+E)	¥	213, 776			

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

《協働事業》

「まつどの介護」プロモーション事業

特定非営利活動法人 SmileResource

介護保険課

事業計画

事業名	「まつどの介護」プロモーション事業
団体名	特定非営利活動法人 SmileResource
事業担当課	介護保険課

事業概要

松戸市の介護(介護制度)を動画化しプロモーションすることで、"介護の見える化"を図り「分かりやすくて利用しやすい松戸の介護」の促進を目指す事業を実施する。

松戸市の課題

私たちの取組は、介護離職者を一人でも増やさないことをミッションに、 松戸市に整備された介護(介護制度)を"如何に市民へ分かりやすく伝える か"が狙いです。

課題①「市民への周知度向上」

松戸市の介護(介護制度) は手厚く多くの資源が準備されています。(まつど de いきいき高齢者サイト参照)

しかし、市民の「松戸の介護」に対する認知度は決して高いものではありません。私たちのひとり一人の生活の背景には、福祉と介護という人生がいずれ身近になってきます。そのためにも、松戸市の介護(介護制度)の存在をもっと市民に理解し易く伝えることが必要となっています。

課題②「若者の力をもっと活用したい」

地域における高齢者支援(地域活動)は高齢者が支えている印象がありますが、是非、若い人材の力を活かす取組が必要です。

これからの福祉活動の啓発には、ホームページや SNS といったツールが有効であり、生活の一部として利用している若者の参画がとても重要視されます。老若男女問わず、それぞれの立場で手を取り合い、高齢者福祉の課題を松戸市民全体で支えてきく体制をより強固なものとすることが求められています。

事業の目的

この事業は次のことを目的として進めていきます。

キーワードは、「いつでもどこでも手軽に、松戸市の介護制度情報を"見る、知る、聞く"ことができる」

課題①の解決策と目的

令和3年度に引き続き、松戸市の介護制度を動画化することで、「具体的な介護制度の利用方法・サービス内容が理解し易くなり、介護が必要となっても慌てずに準備ができる」そのような松戸市の介護を市民へ伝えていくことです。

課題②の解決策と目的

市内外に問わず、介護の資格取得を目指している学生さんら(高校性、専門学生、大学生等)に動画制作へ参画していただくことで、活動の中で"松戸

の介護"について実体験を伴って学べ、高齢者支援に参加できる機会をつく ることです。

事業内容

1 事業内容

市内に幅広く整備されている介護支援体制(行政、事業、市民活動等)を プロモーションビデオ (PV) 化し、下記 YouTube チャンネルにアップロード。 「松戸の介護の見える化」を図る

- ○YouTube チャンネル
- ・介護保険課まつど DE 介護ちゃんねる
- ○介護支援体制の PV 化
- ・松戸市内の事業所や市民活動の取組等に訪問し、以下の動画を撮影 介護サービス等の状況(サービス実施内容や情報提供等) 事業の取組内容(見守り活動、体操、認知症啓発、外国人人材の活動等) 事業所の位置(周りの環境等)
- ・撮影スタッフ団体スタッフ1~2名 + 学生ボランティア1~2名*学生さんは担当課と協力の上、学校等へ直接依頼し募集します。
- ・動画制作に要する機材 スマートフォン、デジタルカメラ、動画編集ソフト、インターネット接続 機器、その他機材(マイク、三脚等)
- ・主に取材、撮影する種別

介護施設、通所事業所、訪問系事業、福祉用具事業所等

- ・事業周知のためチラシ作成(市内事業所等へ配布)
- 2 スケジュール

月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4	各団体へ協力お願い、ボラ	スタッフ及び担当課にて、各拠点で実
	ンティア説明会の開催	施 *Z00Mによる説明会も企画
5~8	動画制作 目標 4 本~	スタッフ及びボランティア、各拠点又
		はスタジオ等
9	企画振り返り	スタッフ・ボランティア及び担当課、
	上映会の企画、開催	事務所等
10	各団体へ協力お願い、ボラ	スタッフ及び担当課にて、各拠点で実
	ンティア説明会の開催	施 *ZOOMによる説明会も企画
11~2	動画制作 目標 4 本~	スタッフ及びボランティア、各拠点又
		はスタジオ等
3	企画振り返り、予備月	スタッフ・ボランティア及び担当課、
		事務所など

3 新型コロナウイルス感染対策としての取組 撮影前の体調管理 撮影時のマスク、消毒の徹底 緊急事態宣言中の撮影の自粛(施設系、通所系、訪問系の撮影自粛)

事業の目標	①初年度の動画制作予定数は年間 15~20 本でしたが、製作時間とコロナ禍での近野な 実体験したしで制作す業を課題しています。
	の活動を実体験した上で制作本数を調整しています。
	☑年間制作数(目標) 年間 8~10 本
	「種別ごとの介護」や「介護支援体制」を5分程度のPVとして制作
	*事業年3年間を通じて、30種別の動画を制作する目標は変更なし
	②介護を学ぶ、介護の興味のある学生ボランティアの募集
	☑年間5~10名
7	③事業の普及啓発
	☑松戸市広報への掲載 1回/上映会 1回~/事業チラシの郵送 介護事
	業所等
協働の必要性	この取組にて制作された動画を沢山の方々に視聴いただきたいと思ってい
(団体)	ます。市民以外にも介護系専門職の方や介護福祉士養成校等の先生や学生の
(141)	方、そして介護の仕事に挑戦してみようと考えている方にも是非、見ていた
e	だけると嬉しいです。結果、松戸市の介護制度が周知され、介護離職の減少
	につながることを夢に描いています。
	今後、沢山の方に動画を視聴いただくには団体独自だけでは厳しく、市と協
	働の関係性で活動すること(特に広報活動において)が必要です。
協働の必要性	すでに市の取組として、介護保険制度のガイドブックの作成及び配布、ホー
(市)	ムページでの周知等を行っています。新たな媒体として動画を取り入れるこ
_	とによって、より市民に分かりやすい情報を提供することができると考えて
	います。
	動画の作成にあたっては、介護現場の生の声を拾う必要があるため、介護現
	場に精通している当該 NPO 法人と協働で事業を行うことで、より幅広い視点
	からまつどの介護を発信することが期待できます。
事業実施の役割	①団体
分担	・総合企画(取組企画、各関係者・団体との連携等)
	・動画制作(撮影、編集、ボランティアとの打ち合わせ等)
	・広報活動(PR チラシの製作、動画制作に関する宣伝等)
	②担当課(介護保険課)
	・企画を進めるために必要となる団体等への紹介
	・広報活動(広報まつどへの掲載、上映会の場の提供等)
	・動画制作に関する監修
今後の展望	事業開始から3年間をかけて、目標する制度を動画化したい。
	多くの学生ボランティアさんらと活動することで、介護の仕事、高齢者福祉
	への理解を深めてもらいたい。
	そして、介護に直面したときに、必要な介護の情報を市民が気軽に見ること、
	調べることができる動画づくりをすることで、介護が必要となっても暮らし
	やすい街にしていきたい。

事業の予算概要

【労力換算 (限度額算入)】

(単位:円)

区分	科	目	3	予算額			積算内訳
団体	労力換算額 (A)		¥	244, 200	※別紙	労力換算計算書	参照

【収入】

区分	科目	3	予算額	積算内訳
	団体拠出金	¥	29, 300	事業費の一部を団体の会計より拠出
団体				
	自己資金の合計額 (B)	¥	29, 300	
市	協働事業負担金 (C)	¥	263, 700	
4	s計額 (D) = (B+C)	¥	293, 000	

【支 出】

区分	科目	7	5算額	積算内訳		
	使用料および賃借料	¥	100, 000	動画編集ソフト (ライセンス料) 撮影機材 カメラ (リース代) ZOOM使用料 (会議用)	10,000円/年 5,500円×12ヶ月 2,000円×12ヶ月	
負担金の	消耗品費	¥	43, 000	資料作成用インク代 コピー用紙代 アルコール消毒液 SDカード ラベルシート 角2封筒(印刷込み) 長形3封筒(印刷込み)	3000円×3セット 3000円×3箱(15,000枚) 2000円×2個 2500円×2個 2500円×2個 35円×200枚 20円×200枚	
交付対	食糧費	¥	16, 000	撮影時のお茶代(ボランティア用) 菓子代	(1回) 2.000円×8回	
象経	印刷製本費	¥	6, 000	動画案内のチラシ	6円×1000部	
費	通信運搬費	¥	93, 000	動画編集用インターネット利用料 郵便代ゆうメール	月6,000円×12ヶ月 140円×150カ所	
	委託料	¥	35, 000	チラシデザイン料	35000円×1回	
	対象経費の合計 (E)	¥	293, 000			
その他経典						
費	その他経費の合計額(F)	¥	0			
	合計額 (G) = (E+F)	¥	293, 000			

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位:円)

-	項目	換算額	積算内訳
	活動計画		人数×時間回数×925円
	会議・打ち合わせ ZOOM (12回)	55,500 円	5 人× 1 h× 12 回× 925 円
	撮影企画準備	44, 400 円	3 人× 2 h× 8 回× 925円
	撮影	88,800 円	3 人× 4 h× 8 回× 925 円
	編集	44, 400 円	1 人× 6 h× 8 回× 925 円
	ボランティア説明会	5,550円	3 人× 1 h× 2 回× 925円
	説明会準備	5,550円	3 人× 1 h× 2 回× 925円
			PI
			PI
労			Pi Pi
労力換算額			PI
額			П
			П
			П
			Pi
			Р
			Р
			PI
		197	н
			н
			Р
	A 計 (A)	244, 200 円	

No. 1 8

《協働事業》

日本語を母国語としない子どものための 学習支援事業

認定 NPO 法人 外国人の子どものための勉強会

文化観光国際課

事業計画

事業名	日本語を母国語としない子どものための学習 支援事業
団体名	認定NPO法人外国人の子どものための勉強
事業担当課	文化観光国際課

事業概要

日本語を母国語としない子どもたちを対象に、生活に必要な日本語だけではなく、学習に必要な日本語を指導し、就学や就職などにおける選択肢をより多く持ち、真の自立のために必要な力の育成を支援する。

また、当該児童・生徒が、地域コミュニティから孤立することのないように、地域の人々に講師やスタッフとして日本語指導やイベントに参加してもらい、日本語を母国語としない子どもの学習支援、生活サポートを強化する。

松戸市の課題	松戸市では、外国籍市民数が年々増加しており、それに伴い、日本語
	を母国語としない子どもも増加している。こうした子どもたちの中には
	言葉の障壁により、周囲との円滑なコミュニケーションが行えない、授
	業を理解できないといった問題が生じており、このような問題が、子ど
	もの学習の機会の喪失や、不登校や非行を助長することが危惧されてい
	る。
事業の目的	① 日本語を母国語としない子どもへ、日常生活や学習に必要な日本語
77/0-12/0	指導及び学校での授業内容を補う学習支援を行い、すべての子ども
	が均しく学ぶことのできる機会を創出する。
	② 子どもが地域から孤立しないための時間と場所を提供し、安心して
	暮らすことのできる環境づくりを推進する。
事業内容	【既存事業の強化】
	① 定例勉強会
	文化ホール教室 土曜(午後) 中学生対象
	常盤平火曜教室 火曜(午後) 小学生対象
	常盤平木曜教室 木曜(夕方) 中学生対象
	常盤平土曜教室 土曜(午前) 小学生対象
	新松戸教室 水曜(夕方) 小中高生対象
	② 夏休み教室
	夏休み期間のうち7月下旬 5日程度(午後)
	③ 入試対策教室
	9月または10月~翌年3月 日曜日(午後) 中学3年生対象
	既存事業①~③を強化するために、学習時間、受け入れ児童・生徒数、
	スタッフ数を増やす。
	· 学習時間
	児童・生徒が部活動後に参加できる遅い時間の開講、土日祝日の開講、

週に複数回の参加等、開講時間のニーズを調査し、学習時間を増やす。

・ 受け入れ児童・生徒数

転入・入学手続き時に、市民課及び教育委員会指導課と連携し、当会 の紹介チラシを配布する。

日本語を母国語としない児童・生徒数の多い地域(※1)の小中学校と情報交換を積極的に行う。

※1 文化観光国際課による「市内在住外国人調査」において、本庁・ 常盤平・新松戸地区が挙げられる。

・ スタッフ数

下記新規事業を実施し、地域の人々が当会のスタッフとして参加することを促す。

【新規事業】

① スタッフ養成及び多文化共生講座 (年間 5 回開催) (内容)

日本語を母国語としない子どもが特に多い地域に向けた講座を実施。 講座内容は、日本語指導や学習指導のノウハウ等スタッフを養成する内容と、地域の人々に広く多文化共生や異文化への理解を深めてもらう内容とする。講座は、外部講師に依頼し、全5回開催する。

(スケジュール案)

月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月	キックオフミーティング	年間スケジュール
		講座内容・講師・場所・日時の
		決定
5月	広報による募集開始	チラシ配布、ポスター掲示
8 月	全5回の講座を実施	実施場所:
~	第1回	第1回~第4回
10月	「日本人から見た外国人」	「松戸商工会議所」
	第2回	第5回
	「外国人から見た日本人」	外国籍児童・生徒数の多い市民
	第3回	センターまたは自治会館
	「日本語を学ぶということ」	実施日時:
	第4回	日曜日午後 14 時~16 時半
	「日本語を母国語としない子	対象者:
	どもへの学習支援」	一般市民30名程度
	第5回「地域における外国人と	※募集に際しては、市の広報等
	の共生」	の活用とともに、外国籍市
		民の多い地域の町会自治会
*		に協力を求める。
3月	事業評価	•

	(新型コロナウィルス感染症対策) 新型コロナウィルス感染症の状況が改善していない場合は、収容人数 の半数以下に参加者を制限し、検温等体調確認、手指消毒、マスク・フェイスシールドの着用、パーテーションの設置等、感染症対策を十分に 行い、教室および講座を実施する。但し、会場が閉鎖された場合は、オンラインでの開催もしくは録画したものを視聴する方法を検討する。 ② 地域連携 地域との連携を深めるため、町会自治会や大学に赴き当会事業を紹介 するとともに住民や学生の当会スタッフへの参加を働きかける。
事業の目標	 ① 来日後1年未満の子どもたちの学校生活全般に関する不安の軽減。 入会時及び入会後6カ月後に入会者向けアンケートを実施し、不安の軽減の程度を検証する。 ② 学習支援の機会増。 各教室の様子を見て、学習時間(90~120分)の延長または実施日の
	増加を検討する。 ③ 学習支援の活動強化。 生徒数を 35 人から 52 人にする。 スタッフ数を 42 人から 52 人にする。
協働の必要性 (団体)	松戸市では、将来を支える子どもたちのために様々な施策を展開している。その一環として日本語を母国語としない子どもが地域で孤立することなく暮らしていけるよう、日本語指導及び学習支援を実施することが重要と考えている。当会は外国人の子どもを対象に学習支援事業をしている。
	また、当会が、行政と連携することで、行政の抱える課題の共有、事業の周知及び会場の確保を一層強化することができ、かつ事業活動の範囲を広げることができると考えている。
協働の必要性 (市)	行政は、当会と連携することで、言語の障壁や、文化の違いのために、 日常生活を送ることにストレスや不安を感じる子どもたちに居場所を提 供することができる。また、地域と子どもたちのかかわりを構築し、地 域の人々に日本語を母国語としない子どもへの理解や協力を促すことが できる。
事業実施の役割 分担	① 団 体:事業の実施(勉強会の運営、講座の開催) ② 担当課:会場の提供、事業実施に係る広報活動
今後の展望	1年目は、既存の事業を強化し、日本語を母国語としない子どもが安心して学べる環境の提供に努めるとともに、地域の人々に向けた講座を実施し、多文化共生の理解を深めるよう務める。 2,3年目は、既存の事業の強化に加え、外国人住民の多い自治会との協働を図り、地域に密着した学習支援モデル事業の実現を目指す。

事業の予算概要

【労力換算(限度額算入)】

(単位:円)

区分	科目	予算額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 2, 065, 525	新規事業(講座)及び既存事業の運営

【収入】

区分	科目		予算額	積算内訳
	団体拠出金	¥	97, 411	事業費の一部を団体の会計より拠出
	寄付金	¥	100, 000	
団体	生徒参加費	¥	315, 000	3,000円 x 3学期 x 35人
	自己資金の合計額 (B)	¥	512, 411	
-		¥	500, 000	
市	市 協働事業負担金 (C)		500,000	
4	合計額 (D) = (B+C)		1, 012, 411	

【支 出】

区分	科目		予算額	積算内訳
	報償費	¥	220, 000	外部講師謝礼 40,000円×5回 学生スタッフ謝金 500円×8人×5回
負担金の交付対象経費	ツイロ 連	¥	50, 000	インク・コピー用紙・文房具・手指消毒液、事務用品、マスク、フェ イスシールド、パーテーション、非接触型体温計等
	消耗品費	¥	100, 000	定例勉強会(教材) 2,000円×50冊
	印刷製本費	¥	70, 000	講座チラシ印刷 10,000円 (20円×500部) 講座資料印刷 40,000円 (20円×2,000部) 生徒募集チラシ印刷 (日本語・中国語・英語・ベトナム語) 20,000円 (20円×250部×4言語)
	委託料	¥	30, 000	掲示用の講座ポスター・チラシ (デザイン費含む)
	使用料及び賃借料	¥	357, 411	講座会場使用 20,790円×4回 710円×3h×1回 定例教室使用 常盤平教室 19,000円×12回、新松戸教室 693円×38回 入試対策教室使用 924円×11回 693円×11回
		¥	25, 000	講座会場での器材(マイク、プロジェクター、スクリーン)使用料 5,000円×5回
	対象経費の合計 (E)	¥	852, 411	
	食糧費	¥	30, 000	行事当日担当会員の昼食代 600円×10人×5回
○ 対の 象他	通信費	¥	100, 000	会報送付 30,000円×3回 寄付領収書送付 10,000円
H KZ	印刷製本費	¥	30,000	会報 10,000円×3回
	その他経費の合計額 (F)	¥	160, 000	
	合計額 (G) = (E+F)	¥	1, 012, 411	

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位:円)

	項目	換算額	積算内訳
	活動計画		人数×時間回数×925円
	講座打ち合わせ(年間5回開催)	185,000 円	5 人× 2 h× 20 回× 925 円
	講座準備(5回)	46, 250 円	5 人× 2 h× 5 回× 925円
	講座運営(5回)	69,375 円	5 人× 3 h× 5 回× 925円
	既存事業強化の検討及び実施	55,500 円	5 人× 2 h× 6 回× 925 円
	既存事業の運営	1,709,400 円	42 人× 2 h× 22 回× 925 円
労			
労力換算額			
額			
	合 計 (A)	2, 065, 525 円	

No. 1 9

《協働事業》

松戸のイメージ向上のための コミュニケーション事業

まつどのこもりかた。編集部

広報広聴課 シティプロモーション担当室

事業計画

事業名	松戸のイメージ向上のための
	コミュニケーション事業
団体名	まつどのこもりかた。編集部
事業担当課	総合政策部 広報広聴課
	シティプロモーション担当室

事業概要

子育て世代前の若者を対象に松戸ゆかりの女性が市内の店舗や場所を紹介して、松戸に暮らす 人のあたたかさや地域のつながり・住みやすさが感じられる Web サイト「まつどのこもりかた。」 を提供し、松戸への関心を高めます。

5	
松戸市の課題	松戸市の「恐い人が多い」「女性の一人暮らしは心配」など治安に対するネガティブな印象を払拭し、「安全な街」、「地域とのつながりが強い街」、「おしゃれな街」を当サイトにて PR します。松戸に興味を持つ機会を増やし、「松戸の暮らし」を共感してもらうことで、20~30歳代の世代が松戸市に「行ってみたい」「住んでみたい」という思いを増幅させるとともに、中・長期的には若年層の地域に対する愛着や転出の抑制、定住へと繋げていきます。 【松戸市の課題】
	・治安が悪い ・若者の松戸市に対する関心が低い(若者の関係人口が低い) ・若者向けや単身向け世代へのアプローチ・事業展開が不足している ・おしゃれな街のイメージがない ・コロナ禍で地域経済が停滞している
事業の目的	「地域への関係意欲」や「愛着」は、インフラ整備などの物理的な施策だけで解決するのは困難であり、松戸市民の感情や心に訴えかけるようなコミュニケーション戦略が必要だと考えます。当サイトは、 <u>若者自身が制作し、若者自らの目線で選んだ</u> 、市内の地域に根差した店や人々の会話、風景や雰囲気に着目し、松戸の魅力の掘り起こしを行います。また、協働事業として取り組むことで、広い視野を持って、取材時や広報活動など松戸市が連携している大学・企業・地域団体との交流を図ることができます。「 <u>若者の地域に関わる力</u> 」の意欲を持続的に高めていくことを目的とします。
事業内容	地元の人々と触れ合う写真やトークを交えて紹介する超地域密着型Webサイト「まつどのこもりかた。」を通じて、若者目線の松戸の多様な魅力を発信します。 1 Webサイトの内容 松戸にゆかりのある女性と地元の店舗や場所を映像美と会話を交えて掲載 松戸ゆかりの女性の採用により「女性が1人でも安心して暮らせる」、「おしゃれで楽しいライフスタイル」といった部分を見せること、松戸での日常の過ごし方、地元の人との会話を掲載することで、治安等の不安を取り除き、住みやすい街・明るく楽しい街であることを訴求していきます。
	2 Web サイト (Twitter、Instagram 含む) 公開までの流れ(1) 情報収集 (随時) →SNS・地域性・店舗状況等を勘案

- (2) 店舗下見、撮影交渉(撮影日の約1~2カ月前)、編集会議
- (3) モデル探し&事前説明(約1カ月前)
- (4) 撮影事前準備(機材の準備・設定、メイク・衣装調達など)
- (5) 撮影→設営、メイク、テスト撮影、料理、モデル&店長取材、本番撮影
- (6) 編集会議、インタビューのまとめ
- (7) HP 作成・編集→内容確認(店舗、モデル)→公開
- 3 スケジュール (2022年度) 毎月1回更新 (12回)

	具体的な取り組み	実施体制・対象・場所等
4月	「まつどのこもりかた。」5月号	取材・撮影・記事作成
5月	「まつどのこもりかた。」6月号	取材・撮影・記事作成
	· (中略) · · ·	
3月	「まつどのこもりかた。」4月号	取材・撮影・記事作成

4 Web サイト「まつどのこもりかた。」の周知

松戸市が発信する広報媒体を活用し、市公式 HP や SNS で本サイト情報を発信するとともに、市内の施設・団体、飲食店にもチラシを配布します。

事業の目標

本サイトは「見られること」が指標になり、Twitter や Instagram のアカウントフォロワー数を増やしていくことが関係人口やファンの獲得に繋がるものと考えます(2021年9月時点での Twitter のフォロワー数:214人、Instagram のフォロワー数:749人)。2022年度は両アカウントフォロワー数1,500人を目標に、本サイトのファンを増やすことで、結果的に市内外から松戸に愛着を持ち、市域を超えた地域交流も生まれることを目指します。

協働の必要性 (団体)

下記①~②により子育て世代前の<u>若者の関係人口を増加させ、中・長期的に</u> 松戸市への愛着・シビックプライドを醸成し、松戸で接する機会を増やすこと で、いずれは松戸市が目指す人口の増加へと繋げていけると考えます。

- 「まつどのこもりかた。」のメリット(信頼度向上)
- ・市の広報媒体の活用と市内の大学等地域の団体との協力・連携

松戸市が発信する広報媒体を活用して周知を図るとともに、学官連携により、 大学施設内で「まつどのこもりかた。」のチラシを配布してWeb サイトにご出演 頂くモデルを募集したいと考えています。大学側からも、学校がある松戸市が どんな街なのかを学生が知るための良いツールとなること、また、モデルとし て地域貢献できることは学生にとってもいい経験となるとの観点から、好意的 に協力頂いています。なお、ハラスメント予防として、学生との直接コンタク トは取らず、大学職員を通しての連絡体制を徹底するとともに、取材等の活動 時においても十分配慮していきます。

② 双方のメリット (PR の相乗効果)

松戸市の広報媒体を利活用し、松戸市に興味を持った方(検索・閲覧した方)に「まつどのこもりかた。」の情報を誘導することで、ターゲットである若者目線での松戸のイメージ向上を図っていきます。さらに、本サイト(Web サイト、Twitter、Instagram)が多くの人の目に触れることで、松戸を知ってもらい、松戸の安全性をアピールできること、また、おしゃれな街まつど検討会をはじめとした様々な市の活動と連携していくことで、相乗効果が図れると考えます。

協働の必要性

松戸市のメリット

松戸市では、主に子育て世帯や高齢者の世代向けの政策が多く、若年層や単

(市)

身世帯に対象を特化したアプローチが足りず、このことは定期的に実施している市民ニーズ調査の年齢別回収率にも顕著に表れています。「まつどのこもりかた。」では、サイトのデザインやレイアウト、人の表情や店の外観・商品等を映す写真の質も高く、市ではなかなか実現できないレベルかつ若者目線で Web サイトや SNS を作成・運営しています。公益・公平性の観点から松戸市が特定の事業者に着目していくことは難しいこと、また、次代を担う若者をターゲットとした視点で、若者が自ら作り上げるサイトを立ち上げることは難しいことから、「まつどのこもりかた。」の編集部が主体的に動きつつ協働することで、理想的な形で民間活力を高めていきます。

また、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況にあるため、国や県から発出される対処方針や要請等に留意し、飲食店を取り上げる際には店舗の営業状況を十分確認するよう求めるなど、本事業を通じてコロナ禍で特に厳しい状況が続いている主に個人経営の飲食店等を応援し、地域経済の活性化にも繋がるようなプロモーション活動に取り組むことができると考えています。

事業実施の役 割分担

① 「まつどのこもりかた。」編集部

- ・<u>松戸に住む人々の人柄や人の繋がりが見えるような</u>店の調査・選定・撮影交渉、モデルの募集、スケジュール管理・調整
- ・Web サイト運営(システム管理、画像等のアーカイブ、メンテナンス等)
- ・記事作成(撮影、ヘアメイク、インタビュー、コンテンツ作成等)
- ・松戸出身メンバーの専門性を活かした役割分担(広告代理店=Web サイト運営、 全体管理・調整、カメラマン=撮影、美容師=衣装・ヘアメイク)
- ② 担当課:シティプロモーション担当室
- ・市の広報媒体を活用した本サイトの認知拡大
- ・協力団体へのアプローチ・紹介、選定するお店や地域のアドバイス
- · Web サイト運営の補助(サイト内容の精査、画像提供など)
- ・関係機関との連携、インターネットプレスリリースの活用

今後の展望

本サイトはSNSアカウントの運用のみで限定的なPRに留まっており、若年層のファンは増加しているものの、まだ知名度は高くありません。引き続き、松戸市と協働で取り組んでいくことにより認知度をアップさせ、サイトをより充実したものに発展させていきます。また、過去1年間の活動の中で「あのお店が好きです」「美味しい店を紹介してほしい」などの声を頂くことがありました。こうしたメッセージをきっかけとして、松戸市民とのエンゲージメントを高め地元に隠れた魅力を発信すること、さらにはお客さんの感想などにも触れ、双方向の情報発信により掲載価値を高め、長期的には本サイトにスポンサーがつくような、安定した運営へと繋げていきます。

松戸市と「まつどのこもりかた。」編集部が協働し、互いに強みを活かして弱みを補完し合い、松戸のまちの魅力を多角的に伝えていくことで、<u>"行きたいまち"から"住みたいまち"へ</u>、結果的に若い世帯が松戸を選び、「安心して住み続けていけるまち」、「地域力の強いまち」、「皆で支え合うやさしいまち」として成長していく一助になりたいと考えています。

事業の予算計画

【労力換算 (限度額算入)】

(単位:円)

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 521, 700	※別紙 労力換算計算書 参照

【収入】

区分	科 目		予算額	積算内訳
	団体拠出金	¥	80, 020	事業費の一部を団体の会計より拠出
団体				
	自己資金の合計額(B)	¥	80, 020	
市	協働事業負担金 (C)	¥	500, 000	
. 4	\$計額 (D) = (B+C)	¥	580, 020	

【支 出】

区分	科目	3	予算額	積算	内訳
	報償費	¥	180, 000	モデル報酬 その他出演者報酬	10,000円×12回/年 3,000円×20人
	消耗品費	¥	126, 000	チーク、ヘアスプレー、ネイルなどの化粧 品類 撮影対象品 撮影備品	2,500円×12回/年 5,000×12回/年 3,000×12回/年
担金	印刷製本費	¥	34, 020	お店専用チラシ印刷 配布用チラシ印刷 紹介用カード印刷	10円×100枚 3.1円×10,000部 10.1円×200部
の 交付	使用料及び賃借料	¥	7, 000	Webサーバ使用料	3,500円×2回/年
対象		¥	1,000	ドメイン使用料	1,000円×1年
経費	委託費	¥	220 000	ギャラリー増築、ページ修正などのSE委託 配布用・お店用チラシなどの制作物デザイン	30,000円×4回/年 50,000×2回
	対象経費の合計 (E)	¥	568, 020		
	食糧費	¥	6, 000	モデルお弁当	500円×12人
(対象外)	交通費	¥	6, 000	モデルの交通費	500円×12人
щ	その他経費の合計額(F)	¥	12, 000		
	合計額 (G) = (E+F)	¥	580, 020		

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位:円)

	項目	換算額				積	算区	内訳				
	活動計画		人数×時間回数×925円									
	カメラマン撮影	88,800 円	1	人×	8	h	×	12	□	×	925	円
	ヘアメイクモデルセットアップ	88,800 円	1	人×	8	h	×	12		×	925	円
	全体ディレクター	88,800 円	1	人×	8	h	×	12		×	925	円
	投稿準備、作業	66,600 円	2	人×	3	h	×	12		×	925	円
	写真レタッチ	55,500 円	1	人×	5	h	×	12		×	925	円
	記事編集	33,300 円	1	人×	3	h	×	12		×	925	円
	お店打ち合わせ	66,600 円	3	人×	2	h	×	12		×	925	円
	モデル打ち合わせ	33,300 円	3	人×	1	h	×	12		×	925	円
労力				人×		h	×		回	×	925	円
労力換算額				人×		h	×			×	925	円
				人×		h	×		回	×	925	円
				人×		h	×			×	925	円
				人×		h	×			×	925	円
				人×		h	×			×	925	円
				人×		h	×		□	×	925	円
				人×		h	×			×	925	円
				人×		h	×			×	925	円
				人×		h	×			×	925	円
				人×		h	×		回	×	925	円
	合 計 (A)	521,700 円									- 25	

No. 2 0

《協働事業》

町会・自治会の活動を PR して 親しみをもってもらおう事業

できる街プロジェクト

市民自治課

事業計画

事業名	町会・自治会の活動を PR して親しみをも
	ってもらおう事業
団体名	できる街プロジェクト
事業担当課	市民自治課

事業概要

- ○町会・自治会の活動をPRする、漫画やアニメの制作
- ○制作した漫画・アニメを、市の HP や当団体の HP・SNS で発信
- ○制作した漫画を製本化、市内への転入者に無料配布

松戸市の課題

松戸市ではベッドタウンという土地柄や東松戸地区の開発などで、人口は増加しているものの、町会・自治会としては単身世帯や外国籍の方の増加、アパートの増加などで町会加入のアプローチがしにくく、結果として町会加入率が低下しています。これにより、町会活動の維持や人員不足に悩む町会・自治会も多くなっています。

加入率の低下は、地域のつながりが薄れ、災害時などの困ったときに周囲に 頼れる人がいない、情報が伝わらないこと等による2次災害のおそれにもつ ながります。これを防ぐため、市では加入促進チラシを作成し、配布する等 の取り組みが行われていますが、抜本的な解決には至っておりません。

加入率低下については、町会・自治会が何をしているのかわからないため、 加入できないでいることが一つの要因として考えられます。町会・自治会の 活動を周知し、親しみを持ってもらうことで加入率の低下を防ぎ、人員不足 の解消につながると考えます。

事業の目的

この事業の目的は、「町会活動の認知度向上」「町会加入率の低下を防ぐこと」です。町会加入率増加のための第1目標として、「加入率の低下を防ぐこと」に取り組んでいきます。市民の方が町会・自治会の活動に親しみを持ち、町会・自治会の加入率向上、人員不足の解消を目的に活動します。

事業内容

- 1 事業内容
- A. 松戸市町会・自治会 PR 内容の調査・ヒアリング

→松戸市の町会・自治会の情報収集を行います。各町会の活動についてのヒ アリングを行い、漫画・動画・冊子の内容を検討します。

【対象】プリンタ用紙購入費・インク購入費

- B. 松戸市町会・自治会 PR 漫画の制作・公開
- →松戸市町会・自治会連合会公式キャラクター『まつかめ』と松戸市町会・ 自治会 PR キャラクター『じちまる』が登場する町会・自治会の活動をスト ーリー仕立てで紹介する漫画を制作します。
- →制作した漫画は、市の HP や当団体の HP・SNS で発信します。
- C. 松戸市町会・自治会 PR アニメの制作・公開
- →松戸市町会・自治会連合会公式キャラクター『まつかめ』と松戸市町会・

自治会 PR キャラクター『じちまる』が登場する町会・自治会の活動をストーリー仕立てで紹介するアニメを制作します。

→制作したアニメは、市の HP や当団体の HP・SNS で発信します。

【対象】声優出演費・収録作業費・BGM 制作費・スタジオ使用料・音響機材 使用料

D. 松戸市町会・自治会 PR を目的とした無料配布冊子の制作・無料配布 →A で制作した漫画と町会・自治会情報をまとめた冊子を制作します。主に 松戸市転入者への無料配布を行います。

【対象】冊子印刷費・ポスター・フライヤー印刷費

E. プレスリリース

B・C・D の制作後、プレスリリースを行います。全国のより広い地域へ、本事業を知ってもらい、大きな注目を集めます。

2 スケジュール

	2 スケシュール									
	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など							
	4~6	A. 内容調査・ヒアリング	A. 構成員、市民自治課							
		地区長ヒアリング	対象:町会							
		町会長ヒアリング								
	7~11	B. PR漫画の制作	B. 構成員、市民自治課、町会							
		C. PR アニメの制作	C. 構成員、市民自治課、町会							
		D. PR を目的とした無料	D. 構成員、市民自治課、町会							
		配布冊子の制作								
	12~3	B. PR漫画の公開	B. 構成員、市民自治課							
2 5		C. PR アニメの公開	C. 構成員、市民自治課							
		D. PR を目的とした無料	D. 構成員、市民自治課							
m or E		配布冊子の公開								
		E. プレスリリース	E. 構成員、市民自治課							
			周知対象:町会、市民							
事業の目標	①漫画制作	【制作漫画数:6話、SNSで	での視聴回数:10,000 回】							
School Section SC 000003000	②動画制作	【制作動画数:2本、SNSで	での視聴回数:10,000 回】							
100	③無料配布	用漫画冊子【1冊(20P程度	度)、制作冊数:3,000部】							
	④2023 年度	その町会・自治会加入率【20	20 年度と同等の加入率 67.85%】							
協働の必要性	・団体は協	働することで、町会・自治会	会の正確な情報を入手し、発信できる。							
(団体)	・市の公認	であることで、情報元の信	用度が高まり、市民の方も安心して情							
	報を受け	取ることができる。								
協働の必要性	松戸市で	地域活動への参加に消極的	な層は、主に単身世帯やアパート居住							
(市)	者で比較的	若年層が多く、こういった	年齢層に町会・自治会活動に参加して							
71137	いただくこ	とで、地域活性化につなが	るとともに、町会・自治会で抱えてい							

る役員の高齢化や人員不足といった課題への解決にもつながります。

そのため、市では町会加入を促進すべく、若い世代が触れやすい Twitter や市 HP 等を活用し町会・自治会活動周知に向けて取り組んできましたが、町会・自治会そのものへの興味を持ってもらう誘因に乏しく、町会加入率向上には至っておりません。

若い世代が興味を持ち、気軽に見てもらいやすい媒体としては、とりわけ YouTube 等のインターネット動画や漫画が挙げられますが、市ではそういったツールを活用する手段に乏しく、作成のノウハウのある団体と協働する必要性が高いと言えます。

また、SNS 等での発信力を持つ団体と協働することで、より広く効果的に 町会・自治会活動の周知を行えるため、町会加入率向上が期待できます。

事業実施の役割 分担

① 団体

- ・脚本、漫画、アニメの作成 ・団体の YouTube に投稿 ・SNS による PR
- ② 担当課
- ・効果の見込める内容、PR したい内容のピックアップ
- ・市で行った町会・自治会活動についての調査をもとにヒアリングする町 会・自治会を選定
- ・松戸市内の町会との連携 ・制作物の内容の確認、修正 ・プレスリリース
- ・松戸市の YouTube に投稿 ・冊子の無料配布

今後の展望

【協働事業1年目】

- ・漫画とアニメの制作
- ・内容は、まず町会・自治会がどんな組織なのか知ってもらうこと
- ・漫画の無料配布と無料視聴可能なアニメを公開する事で、主に加入率の低い若者へ町会・自治会を認識してもらう

【協働事業2年目】

- ・漫画とアニメの制作
- ・アニメではゲストに松戸に縁のある著名人に出演いただき、話題性を出し、 より多くの方に認知してもらう
- ・町会・自治会の具体的な活動を描き、見た方に町会・自治会の活動に興味 を持ってもらう

【協働事業3年目】

- ・漫画とアニメの制作
- ・イベントに出展し、漫画や動画の周知を行い、若い世代が町会活動へ参加 するきっかけにし、町会加入率向上につなげる。
- ・アニメでは松戸に縁のある著名人に出演いただき、話題性を出し、より多 くの方に認知してもらう

【協働事業終了後】

- ・これまでの活動で興味を持ってもらって企業と連携し、町会・自治会の PR 活動の継続
- ・制作したアニメのテレビ放送

事業の予算計画

【労力換算 (限度額算入)】

(単位:円)

区分	科目	予算額 積算内訳	
団体労力換算額	(A)	¥ 610,500 ※別紙 労力換算計算書 参照	

【収入】

区分	科 目	-	予算額	積算内訳
	団体拠出金	¥	118, 614	事業費の一部を団体の会計より拠出
団体				
	自己資金の合計額 (B)	¥	118, 614	
市	協働事業負担金 (C)	¥	500, 000	
4	à計額 (D) = (B+C)	¥	618, 614	

【支 出】

区分	科目		予算額		積算内訳
	報償費	¥	60, 000	声優出演費	15, 000円×4名
負担金の交付	消耗品費	¥	7, 844	インク (カラー4色) インク (黒) プリンタ用紙	1,360円×4種 1,580円×1種 824円(500枚入)×1束
	印刷製本費	¥	366, 370	冊子印刷費 ポスター印刷 フライヤー印刷	336,000円 (112円×3,000枚) 4,640円 (23.2円×200枚) 25,730円 (2.573円×10,000枚)
対象経	使用料及び賃借料	¥	80, 000	スタジオ使用料音響機材使用料	10,000円×2回 30,000円×2回
費	委託料	¥	100 000	収録作業費 BGM制作費	20,000円×2回 30,000円×2話
	対象経費の合計 (E)	¥	614, 214		
〜そ	交通費	¥	4, 400	メンバー交通費	440円×2人×5回
対象外)		w *		30	
Ą	その他経費の合計額(F)	¥	4, 400		
	合計額 (G) = (E+F)	¥	618, 614		

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位:円)

	項目	換算額	積算内訳	
	活動計画		人数×時間回数×925円	
	動画内容打合せ(5回)	55,500 円	5 人× 1 h× 12 回× 9	925 F
	漫画制作(6話)	333,000 円	1 人× 60 h× 6 回× 9	925 F
	動画制作(2話)	111,000円	1 人× 60 h× 2 回× 9	925 F
	脚本制作(2話)	111,000 円	1 人× 60 h× 2 回× 9	25 F
			人× h× 回× 9	125 F
			人× h× 回× 9	125 F
			人× h× 回×9	25 F
			人× h× 回×9	25 F
労力			人× h× 回×9	25 F
労力換算額			人× h× 回×9	25 F
			人× h× 回×9	25 F
	* .		人× h× 回×9	25 F
			人× h× 回×9	25 F
			人× h× 回×9	25 F
			人× h× 回×9	25 F
			人× h× 回×9	25 F
		1	人× h× 回×9	25 F
			人× h× 回×9	25 P
			人× h× 回×9	25 P
	合 計 (A)	610,500 円		

No. 2 1

《 スタート助成 》

松戸市民向け SDG s 普及啓発促進事業

まつど地域活躍塾つながりの会

事業計画書

事業名	松戸市民向け SDGs 普及啓発促進事業
団体名	まつど地域活躍塾つながりの会

事業概要

つながりの会は、松戸市民を対象とした持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals、以下 SDGs)の普及を促進していくため、多様なステークホルダーとの SDGs ネットワークの連携・能力強化、地域での SDGs 普及促進、SDGs 教材の開発・試行、応用講座の開催や写真コンテストを通じた SDGs の周知および学びの場を創出することで SDGs の理解度の向上を図り、市民参加型の SDGs の浸透・定着を目指して本事業を実施する。

取り組もうとする松戸市のテーマ (課題)	昨今、松戸市では市役所における地方創生 SDGs 推進本部が設置され、市として SDGs を促進していくための組織体制が構築された。また、日本経済新聞社が実施した「全国市区第2回 SDGs 先進度調査」で、松戸市は前回の全国 103 位から 59 位となり、県内では千葉市に次いで2位に選ばれ、SDGs のランキング評価は向上している。松戸市における SDGs の 17 個の目標の達成を図るためには、目標 17 「パートナーシップで目標を達成しよう」にあるように、行政、企業、教育機関、NPO/市民団体が連携・協働した SDGs の取り組みをより確実なものにしていくことが必要である。特に、市民社会における SDGs の認知度は高まってきていると推測されるが、それに加えて SDGs と関わりのある市民・企業活動や身近な暮らしの中で市民一人ひとりが SDGs の具体的な行動につながる取り組みを促していく必要がある。当会のスタート助成(2020年度募集・2021年度実施分)では、松戸市内の市民団体・企業と構築した松戸市 SDGs ネットワーク(13 団体)との連携を強化しながら、松戸市民が SDGs の様々な現代社会の抱える課題に対して、当事者意識を持って行動のできる包摂的なライフスタイルを構築することが重要であると認識して活動している。
事業の目的	今回の申請では、松戸市において、①多様なステークホルダーとの SDGs
ず未の口口	ネットワークの連携・能力強化、地域での SDGs 普及促進、②教材の開発・
	試行、講座開催やイベントを通じた SDGs 学習の促進・理解度の向上を通
	じて、市民参加型の SDGs の浸透・定着を目指すことを目的とする。
事 ₩ .	1. 事業の内容
事業内容	今回の具体的な活動内容は、既存事業で構築した SDGs ネットワーク参
2 1 21	画団体の協力を得ながら、下記の取組みを行う。
	(1) SDGs 参画団体の拡大募集および意見交換・勉強会等(3 回程)。
	(2) 松戸市民向け SDGs 教材の開発・試行(教材の種類は冊子を予定。普及
20	啓発の場所は、SDGs 講座、SDGs 写真コンテスト展示会場、松戸市
	消費生活展、SDGs ネットワークの各団体の会合や SNS 等で予定)。
	(3) 地域への SDGs 普及啓発の推進(5 回程<2 か月に 1 回程度>)
	SDGs を市民への普及を進めるために、市内地域の自治会や団体・組
s ¹ :	織等に対して SDGs をテーマとした対話の場や会合を開催する。
	(4) <u>SDGs 応用編講座開催(1 回)</u>
	講座を中心とした座学編<1 日>+現場体験編<1 日>(松戸市で SDGs の 用 277 と 277
	理解を深めるスタディツアー開催)。外部講師を予定。
	(5) <u>SDGs 写真コンテストと展示会の開催<1回>(</u> 身近な生活から SDGs と のつながりを写真に収めてもらう)。外部講師の講演を予定。
	* コロナウイルスの感染状況によっては、(1)~(5)の活動もしくはその-
	部について、オンラインによる開催も視野に入れて実施する。
	ppに ンV・C、 なくノインによるI刑性もTだま」に入れて大心と

	2 スケジュール 目体的な取り組み 中体体制 社会 担託会員							
i a	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など					
	2022.4	(1) SDGs参画団体の拡大募 集説明会 意見交換会・勉強会 第1 回目:5月、第2 回目:12	実施主体:つながりの会 対象: 松戸市内の自治会や団体・ 組織等 場所: まつど市民活動サポートセ					
8	2022.4	月に開催予定 ンター(予定) .4 (2) 松戸市民向け SDGs 教 材の開発・試行 実施主体: つながりの会 試行場所: SDGs 講座、松戸市						
	2023.2	試行期間: 2022 年 9 月~ 2023 年 2 月	費生活展、SDGs ネットワークの各団体の会合、写真コンテスト展示場、SNS等					
	2022.5 ~ 2023.2	(3) 地域への SDGs 普及啓 発<5 回程>(翌年2月までに 隔月1回程度	実施主体: つながりの会、SDGs ネットワーク参画団体 対象: 松戸市内の自治会や団体・					
			組織等(10 名程度) 場所: 団体指定の会場					
	2022. 9~11	(4)松戸市民向け SDGs 応用 講座準備・開催(1回) 講座を中心とした座学編<1 日>+現場体験編<1 日>	実施主体: つながりの会 講師:つながりの会員、外部講師、 SDGs ネットワーク関係者等 対 象: 松戸市民 場所: 松戸市勤 労会館(予定)、野外現場					
	2022.2	(5) SDGs 写真コンテストと展 示会の開催(1 回)	実施主体: つながりの会 講師:外部講師 対象: 松戸市民 場所: まつど市 民活動サポートセンター(予定)					
既存事業からステッ プアップする部分 (ステップアッ プ助成のみ)	ステップアップ助成でないため、記載なし。							
事業の目標		における目標およびその指標が						
		Gs 参画団体の拡大募集および	意見交換・勉強会等					
	活動目標指標: ① 既存 13 の市民団体や企業等に加え、計 20 の組織が SDGs ネットワークに参加する。							
	② 松戸) 促進していくための具体的なアイ					
		市民向け SDGs 教材の開発・	試行					
8	活動目標指標: SDG s 教材を用い、市内のイベントにて SDGs 啓発の場として提供される。							
	(3) 地域	成への SDGs 普及啓発の推進						
			・組織等に対して SDGs をテーマ					
	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	話の場や会合が5回程開催され						
		市民向け SDGs 応用講座の開						
			ディツアーの開催を通じて、参加者					
			いがりについて理解することができ					
	, and AMARCA	のアンケート回答で、 8 割 以_ Gs 写真コンテストと展示会の						
			<u>囲催</u> 指す。 市民の SDGs に対する視点					
	を把握す	ることで、 SDGs 普及啓発をよ	り促進していくための示唆を得る。					
今後の展望	の普及啓	発をより確かなものにしていく	可け、松戸の市民社会の中で SDGs 、ためには、様々なステークホルダ					
			t会の価値や創造を図るための取り					
	関や NPC)/市民団体とのネットワークの	公戸市役所をはじめ、企業、教育機の拡大を一層図るとともに、より活					
		演断的なコミュニケーションの た SDGs の取り組みを打ち出し)場を創出しながら、松戸市らしさ していきたいと考えている。					

事業の予算概要

【収入】

(単位:円)

科 目	金 額 積算内訳
講座参加料	¥ 30,000 SDGs基礎講座参加料: 1,500円(保険料500円含)×20人
団 団体拠出金	¥ 9,550 事業費の一部を団体の会計より拠出
自己資金の合計額 (A)	¥ 39,550
市 市民活動助成金 (B)	¥ 100,000
合計額 (C) = (A+B)	¥ 139,550

【支 出】

	科 目		予算額	積算内訳
	報償費	¥	42,000	SDGs応用講座講師謝礼 座学編: 3,000円×4人 現場編: 10,000円×2人 SDGs写真コンテスト講演謝礼 5,000円×2人
	消耗品費	¥	10,000	会議・講座用文房具一式 3,000円 模造紙、ペン、ポストイット等一式 アルコール除菌液等 1,000円×2個 新型コロナウィルス感染予防対策 (SDGs応用講座でのスタディツアー用) 写真印刷紙代一式: 5,000円
助成	食糧費	¥	900	SDGs基礎講座講師用飲料代 座学編: 150円×4人 現場編: 150円×2人
金の交付対象経	印刷製本費	¥	49,000	SDGs参画団体の拡大募集および意見交換・勉強会等の開催資料印刷 10円×10枚×20セット×3回松戸市民向けSDGs教材試行の印刷 30円×25枚×30セットSDGs 応用講座広報チラシ印刷 4円×1000枚SDGs 応用講座配布用資料印刷 10円×50枚×20人SDGs 写真コンテスト広報チラシ印刷 4円×1000枚SDGs写真コンテスト写真印刷代 50円×50枚
費	使用料及び賃借料	¥	20,250	SDGs参画団体の拡大募集および意見交換・勉強会等開催(まつど市民活動サポートセンター大会議室) 660円/時間×2時間×3回 松戸市民向けSDGs応用講座座学編(松戸市勤労会館ホール) 710円/時間×9時間 SDGs写真コンテスト・展示会(まつど市民活動サポートセンター多目的ホール) 1,100円/時間×9時間
	通信運搬費	¥	7,400	郵便(定形外)関係者への資料・チラシ郵送代 370円(レターパック)×20回
	対象経費の合計 (D)	¥	129,550	
7	保険料	¥		SDGs応用講座現場編保険代 (つながりの会会員) 500円×10人
その他経	景品代	¥		SDGs写真コンテストの景品代 SDGsピンバッチ 一式2000円、SDGs推進ノベルティグッズ一式 3,000円
費	その他経費の合計 (E)	¥	10,000	
合計	額(F)=(D+E)	¥	139,550	

- 1 助成金(B) が対象となる経費(D) 欄の90%以内、自己資金(A) 欄が対象経費(D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業 あたり30万円以内であること。

No. 2 2

《協働事業》

料理教室を通じた父親の意識改革事業

MAISON IZARRA Oyatsu labo * T naturel (メゾン イザラおやつラボ*テ ナチュレル)

男女共同参画課

事業計画

事業名	料理教室を通じた父親の意識改革事業
団体名	MAISON IZARRA Oyatsu labo*T naturel
	メゾンイザラおやつラボ*テ ナチュレル
事業担当課	男女共同参画課

事業概要

父親が主体的に家事・育児へ参加するきっかけづくりと、男女は対等なパートナーであることの理解促進の為に、父親と子どもが共同で料理をつくるイベントと、ワークショップを実施します。

松戸市の課題

- ① 松戸市では、職場、家庭、学校、地域などあらゆる分野で、女性も男性も個性と能力を発揮し、対等なパートナーとして社会に参画し、自立的な生活を営むことを「男女共同参画」として捉えて施策を進めています。しかし、周囲の家族へのヒアリングや、資料「男女共同参画社会に関する市民意識調査」によると、父親が子どもと一緒に過ごす時間は、その家族が希望する理想の状態とは程遠く、男性の半数以上が1日1時間未満で、少ないというのが現状です。共働き世帯が増えている現状の中、男女が対等なパートナーとして互いに認識し、日々の生活の中で家事・育児を主体的に分担していくことが、今後ますます必要であると考えます。
- ②コロナ禍においてテレワークが進み、父親が家にいる時間が増えたが、家事育児への母親への負担は変わらないばかりか、むしろ増えているという声も多く聞かれます。それは、男性は家にいても家事分担を行わないうえ、昼食の用意などの家事が増えるからです。よって、父親も家族の一員としての必要な役割に気づいてもらうことが重要と考えます。

事業の目的

松戸市男女共同参画プランでも定められている

- ① 「男性が家事・育児へ関わることへの抵抗感を減らす」
- ② 「さまざまな分野で女性と男性一人ひとりの能力ををいかす」ために、弊団体の強みである「料理講習」を活用して下記の目的を達成します。
- ・父親と子どもが一緒に料理をする機会の提供を行うことで、

男性が家事・育児に関わるきっかけづくりを行います。

・料理教室の後にワークショップの時間をとり、父親同士の交流を深める と共に、男女共同参画への男性の理解の促進を図ります。

事業内容

- 1 事業内容
- ① 父親と子ども向けの料理教室を実施します。 (年4回)
- ② 3時間(2.5 時間程度の調理イベント+ワークショップ30分)のプログラムを組み立てます。
- ③ レシピの作成や試作、材料の選定・調達を行います。
- ④ 広報用のチラシ・ポスターを作成します。

- ⑤ イベント当日は、普段はパティシエの仕事を行なっている専門スタッフ が調理レクチャーを行い、団体のスタッフがサポート役に回ります。
- ⑥ イベント終了後、振り返りを行い、次に向けた改善点を洗い出します。

2 スケジュール

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月	父と子のお菓子づくり体験教室	市民会館 料理教室、
	春のケーキ (卵不使用)	父親と子ども
		ワークショップ:外部講師
6月	父と子のお菓子づくり体験教室	市民会館 料理教室、
	初夏のお菓子	父親と子ども
		ワークショップ:外部講師
10 月	父と子のお菓子づくり体験教室	市民活動サポートセンター
	ハロウィンモンブラン	調理室、父親と子ども
	(卵不使用)	ワークショップ:外部講師
12月	父と子のお菓子づくり体験教室	市民活動サポートセンター
	クリスマスケーキ	調理室、父親と子ども
		ワークショップ:外部講師。

*感染症の影響で施設の利用制限が続いた場合、

ソーシャルディスタンスが確保可能な市民会館での開催をします。

【事業内容の目的ポイント】

- ・特別な道具や材料を使わず、家庭でもおやつや軽食にも利用しやすいメニューを、父親と子どもでお互いに学びながら共同作業を楽しむことができ、男性の家事・育児への心象的なハードルを下げます。
- ・食物アレルギーに配慮し、卵不使用メニューでの開催も行います。
- ・調理終了後にはワークショップの時間を設け、父親と子どもの意見交換を通じて、男女共同参画への父親の理解を深めます。

ワークショップについては、

- ・冒頭で親子で参加できるゲームの実施と家庭への参画の程度の聞き取り
- ・質問タイムを通し、自身の現状を見つめ直す機会を創出
- ・統計資料を活用し父親が家事育児に参画する必要性を説明し、参加者の意識を高めます。
- ・参加者同士の交流を図り、パパサークルの活動を紹介し、継続的な活動 に繋ぎます。

体験教室を実施した反応としまして、第1回、第2回ともに定員を超える 申込があり、関心を持っていることが分かりました。

調理を通して父と子の関係が深まり、お菓子づくりは料理よりも完成時の 達成感が大きく、家庭に持ち帰って家族で食べる事で、父親の家庭参加意 欲に効果があります。アンケートを実施することで、家事・育児に関する 考え方の変化等を調査し、より効果的な企画内容に改善していきます。

事業の目標	① 料理イベントを市内2つの場所で各2回、合計年4回開催し、
	各回 10 組 20~25 名 を集客します。【参加人数 40 組 80 名】
	②父親の男女共同参画への理解と、家事・育児に関する意識を高めます。
	③父親と子どもに、料理の楽しさ、食の大切さを伝え、参加者は、家庭で
	もおやつや軽食が作れるようになります。
	④ 男性の家事・育児への心象的なハードルを下げます。
	⑤ 「SDGs」2030 年までの約束、17 の世界目標達成に繋げるとともに、ジ
	ェンダー平等の気付きを目指します。
協働の必要性	・団体の自己資金が少ないため実施できなかった、父親向けの事業を行う
(団体)	ことができ、市と協働する事により、信頼と安心感をもってもらえ、イベ
	ントに参加しやすくなります。
	・団体が有するノウハウを活かし、松戸市男女共同参画プランにおいて捉
	えている課題の解決を図ることができます。
	・市の広報力により、より必要な親子へ向けての広報が可能になります。
	結果として、効果的なプログラムを、より必要な親子に向けて提供するこ
	とが可能になります。
協働の必要性	市は、男性(父親)の家事育児参加が少ないという実態の中、その参加の
(市)	きっかけづくりとしての料理教室を開催することは、非常に効果的と考え
	ますが、料理のノウハウがないため、市単独で料理教室を主宰することは
	困難だったことから今回の協働は、お互いに良い機会となります。
(i) 1 (i) (ii) (ii) (ii) (ii) (ii) (ii)	さらに、料理の専門的な知識と経験を有する団体と協働して事業を実施す
17. 19.	ることで、市民の方からは一流の料理人に料理を教えてもらえるまたとな
	い機会と魅力的に映り、市単独で事業を実施するより多くの方に興味を持
	っていただけると考えております。また、親子向けワークショップを実践
	している団体の経験等を取り入れ、市と団体の経験が合わさることでより
	効果的なワークショップを実施することが可能になります。
事業実施の役割	① 団体
分担	・調理イベント(2.5時間)+ワークショップ(30分)のプログラムを組
	み立てます。
	・レシピの作成や試作、材料の選定・調達、広報用チラシ・ポスター作成
	・イベント当日は、団体スタッフが調理レクチャーとサポートを行います。
	② 男女共同参画課
	・ワークショップ講師の選定・依頼
	・広報まつど、市ホームページでの周知、市内施設へのチラシの配布
今後の展望	協働事業終了後も定期的に父親と子ども対象の体験教室を開催し、地域で
	男性の家事・育児に関する意識を高めていきます。
10	お菓子づくり体験教室を開催して学びと体験を提供し、参加費として収入
	に繋げます。

事業の予算計画

【労力換算(限度額算入)】

(単位:円)

区分	科目	予算額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	358,900 円	※別紙 労力換算計算書 参照

【収入】

区分	科目	-	予算額	積算内訳
	MAISON IZARRA Oyatsu labo * T naturel団体拠出金	¥	61, 252	事業費の一部を団体の会計より拠出
団体	ウコ次クのAst 95 (D)		61 050	
	自己資金の合計額 (B) 協働事業負担金 (C)	* ¥	61, 252 371, 268	
	計額 (D) = (B+C)	¥	432, 520	

【支 出】

区分	科目	3	予算額		積算内訳
	報償費	¥	60, 000	外部講師謝礼(3時間)	15,000円×4回
	消耗品費	¥	203, 000	食材	食材1,630円×25×4回 試作材料5,000円×2回分×4回
負担金の	消耗品費	¥	47, 340	資材	クッキングシート800円×10、ラップフィルム550円× 16、絞り袋72枚入3,000円×2 ムースフィルム 100枚 2,200円、デザートカップ蓋付75円×100、 洗剤 100円× 12、スポンジ3個入220円×8、アルコールスプレー(食品 用)1,200円×2、ハンドソーブ300円×8、キッチンペー パー150円×4、手袋100枚入2,000円×2、ペーパータオル 200組 220円×4、保冷剤50個入800円×2
交付	消耗品費	¥	30, 800	ポスター用紙 インク	50円×200枚 5200円×4セット
対象の	印刷製本費	¥	40, 000	チラシ印刷	5円×4,000枚 50円×400部
経費	使用料及び賃借料	¥	21, 280	レシピ作成試作、 作業確 認・共有試作	30円×40時間×8回(レシピ作成試作4回、作業工程確認・ 注意点共有試作4回) 380円×6時間×4回(イベント4回)
	通信運搬費	¥	10, 100	ゆうメール 郵便(定形外)	310円×20施設 390円×10回
	対象経費の合計 (E)	¥	412, 520		
<u></u> ← ₹	食糧費	¥	10, 000	会員の昼食代	500円×5人×4回
対の 象他 外経	交通費	¥	10, 000	会員の交通費	500円×5人×4回
₩	その他経費の合計額(F)	¥	20, 000		
	合計額 (G) = (E+F)	¥	432, 520		

- 1協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位:円)

	項目	換算額		積算内訳	
	活動計画		人数	×時間回数×	< 925円
	料理教室を通じた父親の意識改革講 座打合せ(8回)	74,000 円	5 人× 2	. h × 8	回 × 925 円
	料理教室を通じた父親の意識改革講 座試作会(8回)	59, 200 円	2 人× 4	h × 8	回 × 925 円
	料理教室を通じた父親の意識改革講 座準備(8回)	111,000 円	5 人× 3	h × 8	回 × 925 円
	料理教室を通じた父親の意識改革講 座 (4回)	55, 500 円	5 人× 3	h × 4	回 × 925 円
	料理教室を通じた父親の意識改革講 座振り返り・反省会(4回)	18,500 円	5 人× 1	h × 4	回 × 925 円
	チラシ制作	18,500 円	1 人× 5	h × 4	回 × 925 円
	報告書制作	22, 200 円	2 人× 3	h × 4	回 × 925 円
		·	人×	h ×	回 × 925 円
労 力 協			人×	h ×	回 × 925 円
力 換 算 額			人×	h ×	回 × 925 円
			人×	h ×	回 × 925 円
			人×	h ×	回 × 925 円
			人×	h ×	回 × 925 円
			人 ×	h ×	回 × 925 円
			人×	h ×	回 × 925 円
*			人×	h ×	回 × 925 円
3 3 4			人×	h ×	回 × 925 円
			人×	h ×	回 × 925 円
			人×	h ×	回 × 925 円
	合 計 (A)	358, 900 円			

No. 2 3

《協働事業》

地域まるごとで弧育てを予防する 連携システム事業

まつどでつながるプロジェクト運営協議会

子ども政策課

事業計画

事業名	地域まるごとで孤育てを予防する連携システム事業
団体名	まつどでつながるプロジェクト運営協議会
事業担当課	子ども政策課

事業概要

核家族、経済的貧困、ひとり親、子・親の障がいを抱えた世帯など、子育てにおいて困難を抱えながら地域で孤立し、支援につながりづらい家庭が、官民の連携により必要なサポートにつながることができる仕組みを構築する。

松戸市の課題

核家族化、経済的貧困世帯、ひとり親世帯の増加、子・親の障がいを抱えた世帯、外国人家庭など、子育てにおいて困難を抱えながら地域で孤立し、 支援を必要とする家庭が増えている。

(関連する課題の例)

- ●松戸市における虐待の相談対応件数は約 10 年で約 4 倍に増加 (2011 年度 …年間 310 件 → 2020 年度 …年間 1317 件) ※子ども家庭相談課資料
- ●小学生~中学生の子どもの約4人に1人が生活困難層(困窮層・周辺層) (小学5年生…困窮層7.3%・周辺層16.2%、中学2年生…困窮層8.9%・周辺層16.2%、ひとり親世帯にしぼると約半数が生活困難層)※2019年3月松戸市子育て世帯生活実態調査より引用
- ●ひとり親世帯の増加 (2005 年…夫婦と子ども 34.3%・一人親 8.2% ➡2015 年…夫婦と子ども 28.4%・一人親 8.4%) ※国勢調査より算出

上記のような多様化する家庭の課題がある一方で、公的な支援だけでは、問題の解決に向かわないケース、そもそも支援につながることができていないケースも多くある。社会から取りこぼされることなく、より良く子育てができる環境や暮らしを支えるためには、民間として地域の力を活かすことができる仕組みづくりが必要であると考える。

(支援につながらない状況を表す事例)

- ●就学援助を受給している割合は困窮層の約半数に留まっている。(困窮層の小学 5 年生 44.9%、中学 2 年生 54.7%)
- ⇒困窮層の小学 5 年生のうち、受給していない理由の 55%は必要であるが何かしらの理由で申請していない (申請要件を満たしていなかった 39.3%、申請の仕方が分からなかった 4.5%、申請することに抵抗があった 11.2%)
- ●市役所相談窓口の利用率はひとり親世帯 (二世代) において約3割で、相談したことがない理由の約2割は相談しようと思ってもつながっていない。 (小学5年生31.1%、中学2年生34.7%)
- ➡小学 5 年生/中学 2 年生のひとり親 (二世代) …相談したかったが抵抗があった 8.1%/9.5%、相談する窓口や方法が分からなかった 8.8%/9.5%、相談時間や場所が使いづらかった 4.4%/4.6%)

※2018 年松戸市子育て世帯生活実態調査分析中間報告より引用

事業の目的

課題に示した通り、子育てや子どもの環境において難しさを抱えながらも 支援につながらない家庭が増えている中で、全国的にも増加している産後う つや児童虐待、愛着障害や子ども若者のドロップアウトなど、子育てから子 どもの成長を取り巻く負の連鎖の予防・緩和・解決に向けて、行政と民間団 体、企業、地域住民が協力し合うことのできる仕組みづくりを目的とする。

本事業提案においてはその中で特に、官民それぞれの支援者間の連携を促進するための地域円卓会議の推進、および日常生活の中で子育てに寄り添うことができる市民サポーター育成の仕組みづくりを目指す。

- ●地域円卓会議の目的…主として対象年齢ごとに関わる行政・民間それぞれの支援者が集まり、現状の取りこぼされている課題について共有をし、検討をする中で相互の連携に向けた関係づくりを目的とする。
- ●市民サポーター育成の目的…資格を伴う専門職ではなく、一般市民の中で 日常的に子育てを見守り、あたたかい声掛けができるサポーターを増やすこ とで、地域の網の目を細かくし、孤立を予防することを目的とする。

事業内容

①子育て当事者の声を真ん中にした地域円卓会議の実施

- ・行政・福祉専門職・子育て支援 NPO・子ども食堂など、子育てに関わる多くの機関や団体が集まり、子ども・子育て当事者が置き去りにされない議論、本質的な子育てのしやすさを目指す組織間連携を生み出す。
- ・個人個人の相互理解を育むことを基盤に、それぞれが持っているピース(資源)を持ち寄り、支援とそれを必要としている人が適切につながる体制を生み出していく。
- ・令和4年度は孤立した子育ての現状、様々な制度や支援のはざまに落ちている課題について、行政・民間それぞれの支援者間で問題意識を共有することをねらいとする。
- 参加者は20~30名程度で年間3回を予定
- 取り上げるテーマの例
 - 1. 乳幼児期(コロナ禍で支援につながりづらい世帯への関わり)
 - 2. 児童期(不登校に関連した学校と地域連携について)
 - 3. 青年期(経済的困窮、家庭内不和など困難層への自立支援)
- 開催方法はコロナ禍の状況に応じてオンラインによる実施も想定する ことで、感染拡大時にも事業を推進する。

②地域の孤育てを予防する市民サポーター (仮)養成講座の仕組みづくり

- ・地域との関わりの薄い子育て世帯が、妊娠時期より何気ない日常の中でつながりを持ち、必要な支援や制度にたどり着くことができるよう、声掛けやお手伝いできるボランティア養成と活躍できる場とのマッチングを目指す。
- ・気軽にどなたでも参加することができ、普段の生活の中で子育て世帯に対してあたたかく支えられる地域人材を増やすカリキュラムから試行し、今後は見守りが必要な家庭に対して一歩踏み込んで伴走的にサポートすることができる人材の育成も段階的に目指していく。
- 初年度は当事者の視点でどのようなニーズがあるのか調査し、それに合わせてサポートができるカリキュラムの作成を行い、テキストをデザインする。オンライン開催の場合には郵送して対応する。

その結果、プレ開催としてチラシや SNS で告知を行い、参加者を集めて 講座を実施し、本格的に取り組んでいくための検証をする。 ■ 内容案としては、「現代における子育ての難しさや地域での孤立対策」 「虐待や体罰についての正しい知識と対処方法」「子育て世帯当事者に 寄り添うことができるコミュニケーション」「相談機関へのつなぎ方」 などを予定。状況に応じてオンライン開催を検討する。 <年間活動スケジュール案> 地域円卓会議 市民サポーター養成講座 年間予定、テーマ検討 4月 年間予定の検討 6月 ★第1回開催~ふりかえり 子育て当事者のニーズ把握 8月 テーマ検討 11 ★第2回開催~ふりかえり 10月 協働でカリキュラム検討 12月 テーマ検討 プレ開催(連続5回・外部講師) 2月 ★第3回開催~ふりかえり | 実施のふりかえり ○地域円卓会議の開催 事業の目標 …原則として年3回の実施を予定。延べ80名の参加者を目指す。 ○市民サポーター養成講座の検討 …多様化する子育ての困難さやニーズに対して調査を行い、それに基づいた カリキュラムを作成してプレ開催を実施する。参加者数20名を目指す。 ・民間の子ども食堂をはじめとして地域で出会うことができた困難を抱える 協働の必要性 家庭に対して、適切な行政の支援が必要な場合があるが、どこにどうつなげ (団体) れば良いのか不明であったり、情報共有の方法がないといった課題がある。 ・担い手をさらに増やしていく、また一部の人に限られてしまわないよう、 常に新たな人材が交わる仕組みづくりが必要である。 ・子どもや子育てに関わるどの部署、組織においても対応できる内容に限界 協働の必要性 がある。またケースワーカーも多くの個別事例を抱えており、日常的な困り (市) ごとへの支援は難しい。そのことからも民間との連携は必要であるが、お互 いを知る場や情報共有する機会が少ない。 ・街全体で子育てを支えていく機運を高めていくためには市民の参加が必要 である。特にこれから地域で増える退職シニアの参画を促していきたい。 事業実施の役割 ① 団体…民間ネットワークへ声掛け、会議や研修の設計と場づくり・運営 分担 ② 担当課…庁内の各部署との橋渡しや調整、会場の確保、市民への PR 1年目…官民が信頼関係を築くことのできる場づくり、市民参加を促すた 今後の展望 めのサポーター養成講座の構築 2 年目…より開かれた場で多くの支援者が交流することができる場づく り、サポーター養成講座の展開 (人数拡大) 3年目…課題の共有から課題解決につなげる仕組みづくり、講座を受講し たサポーターの活躍の場とのマッチング ※3 年をかけて、継続のための会員制度の構築、寄付サポーターの募集など を行っていく。

事業の予算計画

【労力換算 (限度額算入)】

(単位:円)

区分	科目		予算額			積算内訳	
団体 労力換算	[額 (A)	¥	310, 800	※別紙	労力換算計算書	参照	

【収入】

区分	科 目		予算額	積算内訳
	団体拠出金	¥	16, 000	団体の会計より拠出
	参加費	¥	20, 000	養成講座参加費 (1000円×20名)
団体				
	自己資金の合計額 (B)	¥	36, 000	
市	協働事業負担金 (C)	¥	321, 000	
台	↑計額 (D) = (B+C)	¥	357, 000	

【支 出】

区分	科目		予算額		積算内訳
	報償費	¥	150, 000	外部講師謝礼 (養成講座)	30,000円×5回
負	消耗品費	¥	21, 000	ブリンター用インク A4コピー用紙 (資料印刷 用) 参加者用ネームホルダー ヘッドセットマイク (養成講座用)	2500円×2セット 600円×5セット 300円×20個 7000円
担金の	印刷製本費	¥	30, 000	チラシ印刷 (養成講座) テキスト印刷 (養成講 座)	5円×3,000枚 150円×100部
交付対象経	委託料	¥	130, 000	養成講座チラシデザイン 費 養成講座テキストデザイ ン費	30,000円×1回 100,000円×1回
費	使用料及び賃借料	¥	10, 000	会場使用料 (養成講座)	500円×4時間×5回
	通信運搬費	¥	16, 000	郵便(定形外)	400円×2回×20名(テキスト送付)
	対象経費の合計 (E)	¥	357, 000		
(対象外)					
頁	その他経費の合計額(F)	¥	0		
	合計額 (G) = (E+F)	¥	357, 000		

- 1協働事業負担金(C)が、対象となる経費(E)欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位:円)

	項目	換算額	積算内訳	
	活動計画		人数×時間回数×925円	
	円卓会議打合せ	16,650 円	3 人× 2 h× 3 回× 925	円
	円卓会議準備	22, 200 円	2 人× 4 h× 3 回× 925	円
	円卓会議本番	55,500 円	5 人× 4 h× 3 回× 925	円
	円卓会議ふりかえり	22, 200 円	2 人× 4 h× 3 回× 925	円
	養成講座打合せ	27,750 円	3 人× 2 h× 5 回× 925	円
	養成講座準備	74,000 円	2 人× 8 h× 5 回× 925	円
	養成講座本番	55,500 円	3 人× 4 h× 5 回× 925	円
	養成講座ふりかえり	37,000 円	2 人× 4 h× 5 回× 925	円
労力			人× h× 回×925	円
労力換算額			人× h× 回×925	円
			人× h× 回×925	円
			人× h× 回×925	円
			人× h× 回×925 [円
			人× h× 回×925 [円
			人× h× 回×925 [円
			人× h× 回×925 [円
			人× h× 回×925 f	円
			人× h× 回×925 f	円
			人× h× 回×925 F	円
-	合 計 (A)	310,800 円		

No. 2 4

《 ステップアップ助成 》

松戸市民も命を大切にしてみます事業

松戸地域猫スタートサポート

事業計画書

事業名	松戸市民も命を大切にしてみます事業
団体名	松戸地域猫スタートサポート

事業概要

飼い主のいない屋外猫を増やさない為に合法的に保護をして不妊手術をする。活動をしている方、 これから活動をしたい方、そして屋外猫に悩まれている方など全ての方を対象に悩みを解決して、 動物病院や各地域などの情報交換なども含めて相談し話し合う機会の場を開催し、松戸市民の皆 様が市民活動の精神を持って安全で安心して、全ての世代が住みやすい街づくりを目指す。

猫の不妊手術をして繁殖を抑制し、元にいた場所に戻した後は地域住民が餌や 取り組むうと り・トイレ掃除のルールを決めて世話をして一代限りでの命をまっとうさせる『地 する松戸市の 域猫活動』。この活動は猫の繁殖が無くなり御近所トラブルも減るため全国で行わ テーマ (課題) れていて松戸市も推進中である。松戸市も少しずつ増え始めているがまだまだ周 知が行き届かない。長年未解決なのが人口に対しての捕獲器の台数が極めて少な い、車の無い市民には借りる事も困難でやっと借りられても野良猫捕獲が不慣れ で地域猫活動自体を諦める方がとても多い。まだ野良猫捕獲経験者が少なく、地 域猫活動に興味を持っても悩んで進まなく、開始時点でつまずく方の支援が課題 となっている。高齢化も進み家族として一緒にいた動物を最期まで看取れなくな り手放してしまう予防策が取れていない問題もある。最近では不妊手術をした猫 の行き先が問題になり、元の場所に戻す事が死につながる事もある、戻る事によ りご近所トラブルが再発する問題もあるので里親探しをする事が増えているが、 またそれに伴い新たな問題も発生しているので他団体との協力が不可欠となる。 地域猫活動に不可欠な「猫の捕獲」「不妊手術」の疑問や不安、そして個々に活動 事業の目的 をする孤独感を取り除き、スムーズに活動ができるように市民の皆様の助けにな り、永く続けてくださる人を増やす。 そしてその結果、活動実践者が増えて野良 猫をめぐる住民トラブルが減り、また活動者同士のつながりを大切にすることで 更に積極的に外部と接触するようになり、精神面の充足感も得られることを期待 する。子供達が命の大切さと人とのつながり思いやりの心を育成して欲しい。 1 事業内容 事業内容 ・野良猫捕獲と不妊手術などのお悩み解消と地域猫活動スタート相談。 ・地域猫活動開始に不可欠の「野良猫捕獲と不妊手術」に関する疑問や不安、孤 独感を解消し、地域猫活動が出来るように力を得てもらう。 ・地域包括支援センターや町会の協力を得て高齢者の飼っている猫やトラブルに なる猫の飼い方などの解決、話し合いや悩み相談。 〈相談会内容〉 【捕獲】 ・捕獲器 借りられる場所、使用方法、猫を捕獲しやすい場所と餌。 ・地域猫成功の秘訣は仲間作り、ご近所の協力を得る方法など。 【手術】 ・「野良猫不妊手術」を実際に行える動物病院と行わない動物病院。 ・松戸市で利用可能な制度 利用方法など。 【猫の行方】

- ・リリース問題解決の為に、預りの会や譲渡会に参加の勧めをし周知もする。 【地域猫活動バッチ】
- ・松戸市の環境保全課で登録すると配布されるバッチ所持の意味の再確認。

【DVD 鑑賞】

- ・地域猫活動や地域での協力の仕方、不妊手術をする意味などを学ぶ。 【お悩み相談】
- ・一人での活動での限界。・自ら活動が出来ないなど。
- ・高齢者が家族としているペットの飼育計画や間違った地域猫活動の修正。 【外部経験者】
- ・外部の地域猫活動経験者や団体の代表の方などからの講義。 〈郵便物発送〉
 - ・周知等のチラシを興味のある方や配布協力者、参加者に郵便等で発送。

2スケジュール

実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
準備	地域包括支援センターと	ご案内を送り反応のあった町会や地域
	町会へ訪問。	包括支援センターを優先に計画打合。
随時	お知らせ発送	外部経験者・郵便物宛先の選抜、確定
		対象:参加された方、配布協力者 他
4月~3月	周知活動	チラシ作成、配布
4月~3月	地域猫相談会(27回)	体制:3名 対象:松戸市民
	地域包括支援センターと	場所:公共施設(市民会館、市民セン
	町会の協力時も含む。内	ター、町会の会館等)
	3回は外部経験者の講義	
3月	ふりかえりアンケート集計	集計対象:これまでの参加者

らステップア ップする部分 (ステップア ップ助成の 4)

既存の事業か | 益々増加する問題は高齢者が飼っていた動物の行方、病気で入院してしまい最期 | まで看られなくなり不幸な動物が増えています。これも屋外猫が増える事につな がります、屋外猫に餌だけして寂しさを紛らわす行動が隣人トラブルになる事例 も増えています。TNR の R である保護した場所に戻す事が近年ご近所トラブルに なり始めていて手術後は家で保護するか里親探しをお勧めしてその際は預かり団 体や譲渡会を得意とする団体に協力して頂き、そのチラシ作成時には内容を載せ て周知します。今年度も地域包括支援センターに引き続き協力を求めていき、最 近町会の方から御連絡が増えて僕達が望む町会レベルでの活動が活発になると期 待し、同時に会員が減ってしまっている町会も会員が増えて地域のコミュニティ が上手くいけたら良いと考えます。

事業の目標

- ・相談会等の開催では1回の参加人数8名以上(基本の相談会、市民センターな ど・地域包括支援センターや町会の協力時も同様)
- 猫の譲渡会の出席で新しい家族を見つける確率を80%以上を目標にする。
- ・アンケートで「地域猫活動を理解した」を80%以上。

今後の展望

- ・相談会の参加をきっかけに地域猫活動の実践者を増やす事で、より多くの市民 に役立つ情報を共有し、実践につなげてもらいたい。
- ・多くの市民の皆様に伝われば、結果は出るので周知を主に力を入れる考えです。
- ・預りさんや譲渡会の参加をお勧めして、屋外猫を減らす事を実現したい。

事業の予算概要

【収入】

(単位:円)

	科目	金	額	積算内訳
	団体拠出金	¥	144, 390	事業費の一部を団体の会計より拠出
団体			(7 = 1)	
	自己資金の合計額 (A)	¥	144,390	
市	市民活動助成金(B)	¥	300,000	
	合計額 (C) = (A+B)	¥	444, 390	

【支 出】

	科 目	3	5算額	積算内訳
	報償費	¥	15, 000	・外部経験者謝礼 5000円*3回
助成金の交付対象経費	消耗品費	¥	20, 000	・0A用紙(5000枚5159円) ・インク代(1セット7273円) ・コロナ対策衛生品(5500円) ・ペン等の文具(2068円)
	食糧費	¥	32, 400	・参加者用お茶代(120円*10本*27回)
	印刷製本費	¥	107, 250	・チラシ印刷費 (A4 1.65円*65000枚)
	委託料	¥	122, 100	・チラシ配布委託(4.07円*30000枚)
	使用料及び賃借料	¥	52, 040	·会議室 380円*4時間*22回 930円*4時間*5回
	通信運搬費	¥	14, 600	・定形郵便物 50g以内 94円*100通(参加者・配布協力者等) ・レターパック520円*10個 (配布協力者)
	対象経費の合計 (D)	¥	363, 390	
	交通費	¥	40, 500	構成員交通費 500円*3人*27回
そ	食糧費	¥	40, 500	構成員昼食代 500円*3人*27回
の他な	12			
経費			2 7	
	その他経費の合計(E)	¥	81, 000	
計	額 (F) = (D+E)	¥	444, 390	

- 1 助成金(B)が対象となる経費(D)欄の90%以内、自己資金(A)欄が対象経費(D)欄の10%以上であること。
- 2 助成金(B)が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 2 5

《 スタート助成 》

発達障害・不登校等の親の会事業

あんだんて

事業計画書

事業名	発達障害・不登校等の親の会事業
団体名	あんだんて

事業概要

松戸市内で、発達障害や、グレーゾーンの子育て、不登校や不登園、いきしぶり、ホームスクーリングについての情報提供と仲間作り、当事者同士の交流会を目的とする。

	The state of the s
取り組もうとす る松戸市のテーマ(課題)	近年発達障害が認知され、診断やクリニックに繋がりやすくなっているとはいえ、予約が取れるまで3ヶ月待ち、と言うことも少なくなく、母親の孤独は消えることがない。学齢期になると、障害ゆえの差別やいじめ、また教員不足などから適切な支援に繋がっていない子も多い。松戸市でも全ての支援学級が特別支援学級の知識を持った職員で構成されているわけではなく、場当たり的な支援に困惑している当事者・保護者も多い。当団体では、発達障害ゆえの悩み、孤独や情報を共有できる場所、仲間作りが必要だと考え、子育ての孤立感をなくすことをテーマに活動する。また発達障害を理由に不登校になる児童も多い。学びの保証がされていない。
事業の目的	い保護者の不安にも居場所提供を通じてアプローチしたい。 発達障害児・不登校等のマイノリティ子育ての大変さに共感し、孤独や情報を共有できる場所、同じような境遇のママ友・仲間作り、子育ての孤立感をなくす。 また今年度は、子育てに行き詰まりそうな保護者の傾聴を行うメンター養成に向けて、メンバー内で養成プログラムを組みたいと思っている。
事業内容	1 事業内容 (1)毎月1回 おしゃべり会を行う。そこでは保護者の最近の悩みを聞いたり、市内の病院・クリニック・療育機関などの情報交換を行う。 (2)親子レクリエーションの実施。年2回遠足(水族館など)と、絵本の読み聞かせなど親子で集まれる場所を提供する(年8回程度) (3)外部講師による講演会、勉強会 発達障がい・不登校・ホームスクーリング等、スペシャルニーズの子育でに関わる方を対象とした勉強会を行う。 (4)事業内容についてチラシ制作・配布。
	〈対象外事業〉 メンバーのスキルアップを行う。 メンバーの傾聴スキルアップ講座への参加 ペアレントメンター養成、ファシリテーション指導・勉強

	2 スケジュール						
	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など				
	4~3	おしゃべり会	構成員、希望者(市内外問わず)、				
			さくら広場・およびオンラインに				
			て				
	6,10	講演会・勉強会	構成員、外部講師、希望者(市内外				
			問わず)、オンラインまたは市内の				
			ホールなどをお借りする。				
	9	親子レクリエーション	構成員、希望者(市内外問わず)、				
			場所未定				
	7~3	メンバーのスキルアッ	傾聴スキルアップ講座への参加、				
		プについて	ペアレントメンターの養成、ファ				
			シリテーション指導・勉強				
既存の事業から							
ステップアップ							
する部分							
(ステップアッ							
プ助成のみ)							
事業の目標	発達障害・不登校等の子育ては通常の子育てに比べて大変さが多いので、						
	そこを保護者同士で励ましあいながら、仲間づくりをする。 オンラインおしゃべり会を増やすことで、子育て中の母親が子どもを預けておしゃべり会や相談会に行きにくい状況を改善する。(オンラインツールのレクチャー、環境設定支援含む)目標参加者数は6名。 傾聴スキルアップ講座への参加(コアメンバーに対して)参加者2名ペアレントメンターの養成やファシリテーション指導。						
	上記傾聴スキルアップ講座を受講した2名と、他2名。						
A /// a D 4B	発達に偏りがある子供達の将来が明るくなるよう、支援級選び、支援学校						
今後の展望							
	選び、不登校・ホームスクーリングなどの選択肢を共有しつつ、高校進学 へ続く情報を切れ間なく提供できるよう、幅広い年齢層の保護者との関わ りをつないでいく。						
	発達に偏りのある子育てが原因で、虐待・いじめ・自殺など、過酷な問が隣合わせにある状況と感じる。保護者が悩みを抱えることなく、前進						
2	きるよう、先輩ママ (ペアレントメンター) の役割を担う構成員の育成を 行う。また今年度より、「発達障がい児の子育て会」の名称を削除し、子育						
-		保護者支援に目を向けてい					
	3/2/1/24	THE HOUSE THE CHAIN CO					

事業の予算概要

【収入】

(単位:円)

	科 目	3	金額	積算内訳
	団体拠出金	¥	38, 200	事業費の一部を団体の会計より拠出
	会費	¥	21, 600	300円×72人(毎月6名程度)
団体				
	自己資金の合計額 (A)	¥	59,800	
市	市民活動助成金(B)	¥	100,000	
	合計額 (C) = (A+B)	¥	159, 800	

【支 出】

科目		7	5算額	積算内訳		
	報償費	¥	50, 000	外部講師謝礼	5000円×4回(勉強会) 30000円×1回 (講演会)	
	消耗品費	¥	13, 000	印刷用紙 インク 封筒 文房具等	500円 2,500円×2セット 3,000円(6円×500枚)封筒代 4,500円	
助成	印刷製本費	¥	6, 000	チラシ印刷	3000枚印刷、2円×3000枚	
金の	使用料及び賃借料	¥	12, 000	会場使用料	1,000円×12回	
交付対象経	通信運搬費	¥	55, 800	郵便代 Zoom利用料	140円×210施設(保育園・幼稚園等施設) 2,200円×12ヶ月	
費	食糧費	¥	8, 000	お茶菓子代	500円×12回(おしゃべり会)、講演会(2,000円)	
	委託料	¥	4, 000	チラシデザイン委託料	1件 4,000円	
	対象経費の合計 (D)	¥	148, 800			
	メンバー研修費	¥	11, 000	外部傾聴セミナー参加 (会員)	5,500円×2名	
7				, s = 1		
の他級						
経費			_ 111			
	その他経費の合計 (E)	¥	11, 000			
合計	額 (F) = (D+E)	¥	159, 800			

- 1 助成金(B)が対象となる経費(D)欄の90%以内、自己資金(A)欄が対象経費(D)欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。